

授業科目の概要					
(共創文化学部国際日本学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	建学の精神を学ぶ科目	建学の精神と仏教Ⅰ	○	本授業では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」とその基礎となる仏教の開祖・釈尊の生涯と教え、さまざまな日本の仏教文化について概説する。日本文化の形成に大きな影響を与えた仏教が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、建学の精神と仏教Ⅰの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		建学の精神と仏教Ⅱ	○	本授業は、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基礎となる曹洞宗の開祖・道元禅師の生涯と教え、さまざまな日本の禅文化について概説する。日本文化に大きな影響を与えた禅の教えが今を生きる私たちの日常生活にどのように関わり合ってくるのか、建学の精神と仏教Ⅱの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
	人間を学ぶ科目	哲学		生命倫理の問題、環境問題、人種とテロリズム、社会的格差の問題などに象徴されるように、現代は、人間存在をめぐる哲学的・思想的な省察が求められている時代である。本授業では哲学史のなかで繰り広げられてきた主要な命題と論点を概説する。それによって、現代社会のさまざまな倫理的課題を各自で考察できるようになることが本授業の目的である。現在起こっている社会的な問題について本質的に議論し、自分の見解を明確に表現できるようになることを到達目標としたい。	
		人間と思想		人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなもののなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。また、倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことを目指す。	
人間と文化			本授業では、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。また、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。		
		生命の科学		「そもそも私とはなにか？」から問を発し、「私」が生まれてきた道筋である生命の進化を学び、「私」を構成している分子や細胞、DNAについて触れ、生物のからだのつくりや仕組みといった生命科学の基礎知識について学ぶ。さらに生命科学分野の進歩とりわけバイオテクノロジーの医療応用に伴って多様な問題が生じているが、それらの問題解決への道筋、そして我々の未来について考えていく。本授業の内容には女性という視点を取り入れ分かり易く講義する。授業の進め方としては、パワポによる講義だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、講義内容を具体的に理解できるように工夫していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人間を学ぶ科目	倫理学		本授業では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
		女性と人権		本授業では、人が社会生活を営む上で最も基本的な人と人との関係を規定する規範としての法学を通して、市民と法との関わり方、という観点から、日本の法のあり方について検討する。日常の社会生活での具体的問題、特に「女性の権利」に関わる問題を素材に、法的なものの考え方（リーガルマインド）を説明し、現代の法がどのようなことを定めているのか、またそれはどのように形成されてきたのか、さらには、どのように評価するべきかを考察する。	
		心理学		本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。心理学では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第2回）、情報はどのように整理されるのか（第3回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第4回、5回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第6回、9-10回）及び発達障害（第7回、8回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第11-13回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第14回では心理療法の1つである「認知行動療法」について学ぶ。	
		生涯学習論Ⅰ		本授業は、生涯学習の意義・目的や定義を学び、生涯学習社会の実現について討論することから始める。また、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学び、生涯学習の多様な在り方についての理解を深める。そして、国際社会が目指す人間像や生涯「学修」の特性を踏まえ、自身の長期的な学修課題について考察を深めていく。そのため、講義毎に「学びのドキュメンテーション」を作成することを求める。自身の学修プロセスの記録や振り返りを通じ、学修課題の明確化に役立ててほしい。	
		生涯学習論Ⅱ		本授業は、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、自身の学修課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発・宣伝する活動を行う（自身の学修課題に基づく課題解決型学習とプレゼンテーションを行う）。特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした授業では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学ぶだけではなく、学習成果の評価や振り返る方法についても学ぶ。	
		社会福祉概論Ⅰ		本授業は、社会福祉論という領域の基本を学習する。まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
		社会福祉概論Ⅱ		本授業は、社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本の文化と歴史		本授業は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。学生各自が「歴史」をより深く学ぶことで培った視角や問題認識をもとに、現代日本社会の諸問題も考えることができるようになる。	
		世界の文化と歴史		本授業は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本授業は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
		民俗学		本授業は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		考古学		本授業は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学		本授業は、産業と人びとの暮らしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業と暮らしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		戦争と平和の歴史Ⅰ		戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、本授業では19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
		戦争と平和の歴史Ⅱ		戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、本授業では第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	文化と歴史を学ぶ科目	西洋文化史		本授業では、ルネサンス以降の西洋社会における文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、その発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から20世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究する。	
		日本美術史		本授業は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		比較文化		本授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
		観光地理（日本）		本授業では、観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高めることを目的とする。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、授業で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
		観光地理（世界）		本授業は、グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣・魅力などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付けることを目的とする。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、授業の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
	社会と自然を学ぶ科目	日本の政治		本授業では、日本の政治を戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当て、その軌跡から日本政治の特徴を探ることを目標とする。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家や官僚任せの人生を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いた講義とする。	
		世界の政治		本授業では、国際社会における諸問題や日本のポジションを探ることを目標とする。国際社会で日本は”異質な国家”とみなされるケースが多々ある。なぜ日本は世界から”異質”に思われるのか？日本が”異質な国家”と思われる構造を国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の特徴から検証する。また、日本を取り巻く国際社会のアップデートな問題も取り上げ、教養を深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会と自然を学ぶ科目	日本の経済		本授業では、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
		世界の経済		現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を見無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本授業は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。なお、世界経済の現状について、経済学の基礎的手法や統計データなどを用いることにより学修し、最終的に、貿易政策や他国との関係、時事問題を理解する力を養う。	
		政治と市民参加		現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。本授業は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
		法学		私たちの生活は、法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限する。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな二つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務である。本授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをいねいに伝えていく。身近な裁判例なども紹介し、新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
		法と社会		法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段である。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがある。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論である。本授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝え、未解決な社会問題を考える際に、ひとつの指標を提供したい。個々の法のあり方を具体的に紹介した上で、現代社会の抱える高齢社会の問題についても考える。	
		日本国憲法Ⅰ		日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
		日本国憲法Ⅱ		現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。本授業では、こうした国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐる議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会と自然を学ぶ科目	社会学Ⅰ		「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている21世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。本授業は、この社会学の基本的な考え方を、「再帰性」をキーワードに、伝統や宗教などの具体的なトピックを上げながら解説する。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前のこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
		社会学Ⅱ		本授業では、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、身体、医療をめぐる現代社会の問題といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、身体、医療の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
		数学の世界		数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本授業は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、数と式（整式・因数分解、一次方程式・連立方程式）、関数（一次関数、二次関数、二次方程式）、図形の性質（合同・相似・三平方の定理、円の性質）、図形と計量（三角比、三角関数、三角形への応用）、場合の数（順列・組合せ）、確率、整数の性質（約数と倍数）等について学ぶ。	
		物理の世界		物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。本授業では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。具体的には、物理学で扱う単位と数学的知識、物体の運動、力学、仕事とエネルギー、熱とエネルギー、音とは何か、電気とは何か、身の回りの物理学等について学ぶ。	
		生物と生命		生物学、生態学、人類学、環境科学をディシプリンとして、ヒトを中心とした生物と環境との関りを学ぶとともに、人間が営む脱生物学的活動が生態系サービスにどのような影響を与え、その結果引き起こされる環境問題についても学ぶ。さらに、人類存続が可能な関係を再構築するために「科学リテラシー」を身に着けることの必要性を理解する。授業の進め方としては、パワポによる授業だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、授業内容を具体的に理解できるように工夫していく。	
		地球と宇宙		古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本授業は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	
		色彩と科学		本授業は、視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
		統計の基礎		本授業は、統計学のなかでも、より基礎的な「記述統計学」の習得をテーマとする。記述統計学の狙いは、与えられたデータを、特徴がわかりやすくなるようにまとめることである。本授業では、平均値のような単純なまとめ方からスタートし、より高度なまとめ方までを段階的に理解することを目標とする。具体的には、1変数の統計的分析、2変数の統計的分析、量的変数と質的変数の違い、4つの尺度の区別、3変数の統計的分析等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	実習科目	地域共創活動実習		自分にもできることを通じて、様々な人々と関わり、社会における新しい価値や視点を協働して見出すことを目標とする。本科目で言う共創活動とは、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などにおけるボランティアを通して様々な立場の人と交流することを意味する。授業の主な進め方としては、①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出等が義務づけられる。	
		国際協力実習		グローバル化が進展し、世界が緊密になりつつある昨今、国際協力は幅広い意味を持ち、その手法も多様化している。国際協力実習では、特に途上国での開発支援を念頭に、協力の現場である現地を訪ね、社会・経済状況を視察し、人々と交流を行いながら、自ら国際協力を実践し、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。訪問国についての情報収集、実習の準備と実習を中心とし、ディスカッションやプレゼンテーションによりコミュニケーション力を高め、国際協力への理解を深める。	
		海外英語研修Ⅰ		本授業は、研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
		海外英語研修Ⅱ		本授業は、「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
		English Summer Seminar		(英文) This course will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will feel more confident in her ability to communicate in English, in addition, make new friendships with all participants. (和訳) 英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。2名の英語教員が協働でグループをマネジメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
	就業力育成科目	キャリアデザインⅠ	○	本授業は、自分らしく人生を生きるためのキャリア形成能力と社会に旅立つ準備としての就業力の育成を目指す。複数のワークを通して将来について考える機会をもち、目標を思い描くことによって今後の大学生活を有意義に過ごせるよう働きかける。そのうえで将来目標と大学全体や専門領域での学びを結びつけることで、学修への動機づけを高めることを目標とする。また、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動できるよう、基礎的な知識とスキルを身に付け、ペアワークやグループディスカッション、ライティングなどのアクティブラーニングを中心に据えることで、コミュニケーション力と文章力をも高めてる。以上の学修を通じて、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「キャリアプランニング能力」および「人間関係形成能力」を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	就業力育成科目	キャリアデザインⅡ	○	キャリアデザインⅠの授業を進展させ、本講義では将来目標をさらに具体的に思い描き、それを実現できるよう就職活動に関する実践的学修を中心に進める。具体的には、①自己の興味関心や強みを理解するワークを実施し目標を明確化すること、②業種や職種について調べることで進路選択の幅を拡げること、③履歴書の書き方やインターンシップ対策など就職活動時に必要とされる知識やスキルを獲得することにより就職活動での主体的な動き方を学ぶことの3点によって、自信をもって今後の進路選択に臨めるように準備することを目標とする。ペアワークやグループディスカッション、ライティングなどのアクティブラーニングを実施することで、コミュニケーション力と文章力をも高める。以上の学修を通じて、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「自己理解・自己管理能力」および「人間関係形成能力」を育成する。	
		キャリアデザインⅢ		キャリアデザインⅠ・Ⅱで修得した知識やスキルを活用しながら、将来を切り開き、目標を実現するための更なる就業力向上を目指す。就職活動スケジュールについて改めて学習し、エントリーする企業を決めるための企業研究を行い、自分の強みを活かした自己PRについて考え、企業を想定したプレゼンテーションを行う。また、テーマを設定したグループディスカッションを行うことで他者の考えを理解し受け入れながら協同する力、様々な課題を発見・分析する力、考えた内容を相手に伝える発信力を育成する。以上の学修を通じて、本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「人間関係形成能力」および「課題対応能力」を育成する。	
		キャリアデザインⅣ		キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲで修得した知識やスキルを活用しながら、描いた将来や目標を実現するための更なる就業力向上と総合的なスキルの獲得を目指す。具体的には、インターンシップへのエントリーを模擬的にを行い、履歴書の作成を実際に行うこと等を通して実践的に学び、自己の特長について改めて振り返り、これまでの大学生活でどのような経験をしたのか、そこからの学びは何かを考え他者と共有することで、自己のアピールポイントを発見する。また、受講生同士での質疑応答やグループディスカッションを実施することで他者と協同する力、課題発見力、相手に伝わる発信力をさらに向上させる。以上の学修を通じて、本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成能力」「課題対応能力」を育成する。	
		ビジネス・キャリア演習		将来の予測が困難で不確実性の高くなった昨今においては、ビジネスシーンにおいても個人の人生においても未知の課題を解決しなければならない状況が増加している。本授業では、企業や社会における問題を想定し、グループで課題解決に向けてアイデアを捻出し、実行する手段について考え、実際に解決に向けて協同するという演習型で実施する。様々な課題に取り組むことを通じて、問題解決能力の向上とともにグループでのコミュニケーション力やチームワークを醸成する。本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「課題対応能力」および「人間関係形成能力」を実践的に育成する。	
	健康体育科目	女性とウェルビーイングⅠ		本授業では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。女性とウェルビーイングⅠでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。本授業を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に付け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
		女性とウェルビーイングⅡ		本授業では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた授業とする。女性とウェルビーイングⅡでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
		スポーツⅠ		健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	健康体育科目	スポーツⅡ		自分の身体とは一生つきあって行かねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	○	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目標とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
		言語表現演習Ⅱ	○	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	
	外国語育成科目	英語（会話表現）Ⅰ	○	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅱ	○	英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅲ		英語（会話表現）Ⅰ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅳ		英語（会話表現）Ⅲを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養 科目	外国語 育成 科目	英語（読解）Ⅰ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅱ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅲ		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
		英語（読解）Ⅳ		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	
		英会話Ⅰ		（英文） This class focuses primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real-world topics are provided and students are given language structures that will help them in a variety of real-life situations. Through a combination of pair and group work, students are given a variety of activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳） この授業では、リーディングとライティング指導も行いつつ、主にスピーキングとリスニングの上達に重点を置く。自然で実際に使われている会話形式を取り上げ、発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	英会話Ⅱ		(英文) This class builds on English Conversation I and continues to strengthen students' communication skills in English. Special attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversation topics. Real-world media will be used as a springboard for meaningful interaction. Interactive structures related to communication in modern English will be provided and students will be given the opportunity to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. (和訳) 「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語でのコミュニケーション能力を強化することを目指す。特に、口語英語について積極的に知識を身につけ、一般的で最新の様々な会話トピックについて対話する能力を養う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
		英会話Ⅲ		(英文) This class builds on the content of English Conversation I and II and provides students with training in a deeper level of natural English communication. Special emphasis will be placed on sustaining conversations over longer periods of time. To achieve this goal, students will be exposed to various methods of turn-taking and conversational strategies related to forming follow-up questions and pausing in conversation. Students will work on achieving natural English rhythm in their speech with the goal of improving their overall fluency. (和訳) 「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、より深いレベルの自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」(会話を途切らすという会話の技法)を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	
		英会話Ⅳ		(英文) This final course in English Conversation will synthesize the practices learned so far with the goal of making students confident and natural in their English communication style. Students will work on maintaining fluent, extended conversations about relevant current events and topics. The differences between casual and more formal conversations will be studied. Pragmatics in relation to American and British culture will also be examined, with particular emphasis on hedging and expressing disagreement. Students will become sensitive to cultural differences among native English speakers and how to interact appropriately in a variety of international situations. (和訳) 「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
		フランス語Ⅰ		本授業では、主にフランス語未習者を対象に、フランス語の読み・書き・会話の基礎力を養成することをテーマとする。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	フランス語Ⅱ		フランス語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
		フランス語Ⅲ		フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
		フランス語Ⅳ		フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	
		ドイツ語Ⅰ		主にドイツ語未習者を対象に、ドイツ語文法の基礎内容を学習し、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。具体的な文法事項としては、アルファベットの読み方から発音の確認をはじめ、簡単な挨拶の表現を経て、ドイツ語学習の基本である人称代名詞、動詞の現在形の活用、ドイツ語の語順、冠詞のつかいかたとその活用の習得までを目指す。また、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより高めることを重要なことと考えている。	
		ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。	
		ドイツ語Ⅲ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱの受講を経た学生を対象に更なる文法学習を進め、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」の授業における既習内容の復習から始め、さらに発展的な文法内容を確認し、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより一層高めることを目標とする。	
		ドイツ語Ⅳ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。時制や関係代名詞についての全体的な確認と受動態・仮定法などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。ドイツ語で書かれた文章に多く触れることで、初級ドイツ語文法の総括的な習得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	韓国語Ⅰ		本授業では、主に韓国語未習者を対象に、韓国語文法の基礎内容を学習し、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する初歩的な理解を身につけることを目指す。具体的には、文法理解に加え、読み・書き・会話の基礎力を育成することが目標となり、表記と発音の関係を学び、特徴的な発音法を理解し、韓国語学習の基本の習得を目指す。日本と韓国の文化比較や社会事情などに関したテーマを扱い、学生の関心をより高めることを重視していく。	
		韓国語Ⅱ		韓国語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進め、既習の語彙・文法を復習しながら語彙力・表現力を高める。会話表現については、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、基礎的な「受信・発信」ができる力を身につける。自分のことについて話すことができ、かつ相手についての簡単な質問ができることをめざし、韓国語による会話能力の向上を図る。	
		韓国語Ⅲ		韓国語Ⅰ・Ⅱの受講を経た学生を対象にさらなる学習を進め、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の授業における既習内容の復習からはじめ、さらに発展的な文法内容を確認し、易しい文章の読解、作文などを盛り込み、韓国語の運用能力をバランスよく鍛える。会話表現については、語彙力、表現力をさらに高め、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、簡単な質問を正確に聞き取れるようトレーニングを行っていく。	
		韓国語Ⅳ		韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を振り返りつつ、基礎文法についてさらに理解を深める。文法事項、単語などを繰り返し確認することで知識の定着を目指し、韓国語で書かれた文章に多く触れることで初級韓国語文法の総括的な習得を目指す。会話表現については、身近な話題についてある程度会話を続けられる力をつけるために、テキストの例文・本文の暗誦や教室学習を通じ、文字に頼らずに会話ができるヒアリング力と発話力を高め、総合的な会話力を身に付ける。	
		中国語Ⅰ		本授業では、主に中国語未習者を対象に、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諸否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
		中国語Ⅱ		中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身につけた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
		中国語Ⅲ		中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	中国語Ⅳ		中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
	情報力育成科目	ICTリテラシーの基礎	○	ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化が著しい。コンピュータ中心だった情報処理からスマートフォンやタブレット端末が主流の情報共有に変化し、情報そのものも複雑化してきた。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業など私たちの生活を一変させるものであった。また、小中高においても情報活用能力の育成とICT活用が新学習指導要領のもと全面实施された。こうした中、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行う。	
		ICTリテラシーの応用	○	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目標とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。総合的にICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって授業を行い、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に、数値処理や統計処理など基礎ゼミや専門ゼミ、授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて実務的な演習を行う。	
	特設科目 留学生	日本語Ⅰ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。 特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 聞きやすくなりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。	
		日本語Ⅱ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。	
		日本語Ⅲ	○	総合的な日本語力の向上を目指す。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。口頭要約表現や意見表明および論理的に相手を説得する方法を身につける。また、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。この授業では発表とディスカッションを行う。	
		日本語Ⅳ	○	パネルディスカッション、グラフを使った意見表明のスピーチ、ディベート（1対1）を通して、聴解力と口頭表現能力をさらに伸ばすことを目標とする。資料の読解、原稿やレポートの作成によって、総合的に日本語力が向上することを目指す。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。この授業ではディスカッションを行う。	
		日本事情Ⅰ	○	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目指す。また、日本社会でも特に教育や日常生活などさまざまな場面でみられる日本文化について、これまで得てきた知識を確認しながら、さらにそれを深めていくことを目的とする。具体的には、日本の教育制度、若者の就業意識・日本人の労働意識、年中行事、訪問や食事のマナー、季節のあいさつ、伝統芸能・祭りなど、日本の教育と文化について理解を深める。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養 科目	特設 科目 留学生	日本事情Ⅱ	○	本授業は、日本で用いられている文字、あるいはそれを使って書かれた小説をはじめとする文学作品に目を向け、折々の季節に応じた風習、突発的な出来事に対し日本ではどのようにしているか、などについても触れ、日本文化に対する知識を深めることを目標とする。具体的には、手紙文（形式・書き方）、日本の作家や小説、日本の詩人や詩、短歌、俳句、川柳、祝儀、不祝儀、季節のあいさつ（年賀状）、クール・ジャパン、昔話、折り紙など、日本の教育と文化について理解を深める。	
		日本事情Ⅲ	○	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目標とする。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどのタスクを通じて、自分の意見を発信できる能力を養う。具体的には、日本ってどんな国?、都市の暮らし・地方の暮らし、日本の旅を楽しもう、いただきます!、季節を楽しむ年中行事、知っておきたい日本の歴史、伝統文化体験等について学ぶ。また、母国と日本、日本の都市と地方、日本の昔と現代、など多様な視点から比較し、母国の特徴について新しく気づくことで、より具体的な意見を述べる力を身につける。	
		日本事情Ⅳ	○	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目標とする。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどのタスクを通じて、自分の意見を発信できる能力を養う。具体的には、現代文化とポップカルチャー、スポーツの楽しみ方、前進を続ける科学技術、教育と子供たち、産業構造と経済、政治と憲法、多文化共生社会を目指して等について学ぶ。また、母国と日本、日本の都市と地方、日本の昔と現代、など多様な視点から比較し、母国の特徴について新しく気づくことで、より具体的な意見を述べる力を身につける。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	基本 科目	基礎ゼミⅠ	○	本授業は、大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養うことを目的とする。大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごし、どのような将来を切り拓くかを考え、個々の学生が自分の目的を発見する手助けをする。言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化や、国際社会における日本の立場等について、広く基礎知識を習得することもあわせて行う。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	
		基礎ゼミⅡ	○	本授業は、基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養うことを目的とする。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術の習熟を目指し、さらに、自己について理解と認識を深めることも目標とする。学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換、発表等を通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。また、多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、2年次以降の専門的学習に必要な不可欠な教養も学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	
		日本語表現Ⅰ	○	本授業は、日本語に関する基礎知識を修得するとともに、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。具体的には、文や文章の組み立て、語句の意味、用法や表記などについての知識を再確認したうえで、自らが作成した文章を見返し、さらに磨き上げることで言語感覚を磨いていく。社会人として必要な言葉のマナーや「伝わる日本語」を身につけ、言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。	
		日本語表現Ⅱ	○	本授業は、これまで培った日本語の能力を伸ばし、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。具体的には、言葉の成り立ちや敬語などについての知識を再確認したうえで、様々なスタイルの文章作成を通して表現の特色や言語の役割について理解を深め、言語感覚を磨いていく。社会人として必要な言葉のマナーや「伝わる日本語」を身につけ、文章表現を楽しみ、各自の言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。	
		国際日本学ワークショップⅠ	○	本授業は、現代の日本において継承され、変容しているさまざまな文化事象を学び、世界における日本文化の立脚点について俯瞰することを目的とする。具体的には、海外から招来した異文化の受容と変容、あるいは長い歴史の中で育まれてきた日本特有の精神文化の特色などを観察し、有形・無形の文化遺産をテキストにして日本の文化の総括的な検証を行う。さらに変容する現代の日本文化について理解を深め、世界の中の日本文化という観点から考察する。	
		国際日本学ワークショップⅡ	○	本授業は、現代の日本において継承され、展開しているさまざまな文化事象を学び、世界における日本文化の立脚点について俯瞰することを目的とする。具体的には、「国際日本学ワークショップⅠ」における学びに基づき、「外国人の見た日本」という観点から日本の文化を捉えなおし、相対化することによって、学生の視点による新しい日本論の構築を模索する。この学びを通じて、現代の日本文化について広く知識を持つとともに、変容する現代日本の文化について理解を深め、現代日本の特性について探っていく。	
		国際日本学ワークショップⅢ	○	本授業は、国際社会における日本文化の意義と諸事例を学び、国際感覚に富んだ視点から概観した場合の日本文化とはどのような様相か、その客観的な観察力の修得を目的とする。具体的には、富士山、寺社建築、浮世絵、日本庭園、伝統芸能などの有形・無形の文化財を扱い、海外からの視点によって再評価されたさまざまな文化遺産について学習し、それらを自らの手でまとめ発信してゆく手法を学ぶ。なお、必要に応じて現地を見学する学外学習を実施する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	国際日本学ワークショップⅣ	○	本授業は、国際社会における日本文化の意義と諸事例を学び、国際感覚に富んだ視点から概観した場合の日本文化とはどのような特質があるのか、その客観的な観察力の修得を目的とする。具体的には、「国際日本学ワークショップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」における学びに基づき、国際社会へ向けて日本から発信されているアニメをはじめとする現代日本の諸文化について学習する。この学びを通じて得たものを自ら発信してゆく手法を学ぶ。なお必要に応じて現地を見学する学外学習を実施する。	
		日本文化体験実習		本授業は、日本を代表する伝統文化についての理解を深め、その意義を深く考察しつつ、作法や所作を実践的に身につけることを目的とする。具体的には、茶道や華道等の主要な伝統文化に関する歴史について講義を行い、その特質を考察するとともに、実際に伝統文化（茶道や華道等）の基本的な所作を実践する機会を設けて、日本の伝統文化や日本人の美意識や自然観の特質を体系的に理解できるように導く。	
		言語文化体験実習		本授業は、日本の言語文化、主に文学系の作品類を自ら作成することを通して言語文化に関する理解を深め、その意義を実感することを目的とする。具体的には、短歌・俳句を中心としつつ、学生の希望に応じて短編の散文や韻文の作成に関する講義を行うとともに、都内の文学に関する博物館や旧跡などを見学して理解を深める学外学修を実施する。	
		江戸文化体験実習		本授業は、現代の日本文化の中にも息づく江戸時代以前の文化への理解を深め、前近代の文化が有していた意義と、その近代化に伴う変容について深く考察することを目的とする。一概に江戸文化を理想化するのではなく、また旧文化として矮小化するのでもない理解の仕方について講義を通して適切に導くとともに、学外施設での見学実習を実施し、その経験を通じて江戸時代の文化を正當に理解できるように導く。	
		京都文化体験実習		本授業は、日本の歴史および文学・文化にとって重要な意義を有しつづけてきた京都を対象とし、京都府の史跡、寺院・神社、博物館・資料館等の文化的意義について理解を深めることを目的とする。そのため京都府での学外実習を実施する。その実習を有効にするための学習として、文書、古記録等の取り扱いや調査の方法、寺院・神社・史跡など現地調査の方法等を学習する。有形無形の史料を取り扱うための方法論を身に付け、日本文化や日本史を深く学ぶためのアプローチの仕方を修得できるように導く。	
	伝統日本研究科目	日本文化入門	○	本授業は、主要な古典文学作品等を読み味わいながら日本人が培ってきた文化や歴史を再確認し、古典等の資料を扱うときに必要な基礎的知識を修得し、伝統的な日本文化研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、各時代の主要な日本の古典籍を取り上げ、歴史的背景、言語的背景等の基礎的な事項を学修する。様々な時代の古典を学ぶことで、歴史的な変化を認識しつつ、過去の文献に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができるように導く。	
		日本の古典文学Ⅰ		本授業は、日本の豊かな古典文学の世界に関する知識を修得し、豊かな人間性を育むことを目的とする。具体的には、上代から中古の著名な作品群のうち数点ないし一点に絞り込んで取り上げて深く考察する。作品を一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代までつづく「日本文学」の特性について考察を深める。自分なりの興味・関心をもって古典文学作品と向かい合う姿勢を身につけ、日本の古典文学作品について自分なりの言葉で、その概略を説明することができる力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	伝統日本研究科目	日本の古典文学Ⅱ		本授業は、日本の豊かな古典文学の世界に関する知識を習得し、豊かな人間性を育むことことを目的とする。具体的には、中世から近世の諸作品の中から数点ないし1点に絞り、その作品について時代的背景とともにその概要を説明し、そこに表れた人々の生活や風俗、思想について理解を深める。古典文学の世界に親しみ、興味・関心をもって作品と向かい合う姿勢を身につけ、当時の文学に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現する力を身につける。	
		仏教と古典	○	本授業は、仏教に関する説話や民話、あるいは随筆などをひろく講読し、人間存在についての深い理解にもとづく人間性を涵養することを目的とする。具体的には『今昔物語集』『日本霊異記』『沙石集』などといった説話集や有名な民話など仏教と関わりの深い作品を取り上げ、その重要と思われる箇所を講読する。また、歴史的展開のみならず、仏教の思想が日本の文学ひいては日本の文化にどのような影響を与えたかについても考察し、さらに履修者にゆかりのある地元の昔話についても調べさせるなど地域文化への関心を高めることも視野に入れて学修する。	
		日本の歴史と文化Ⅰ (古代)		本授業は、日本の古代史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、六国史、古文書、日記、物語、木簡、出土遺物等の日本古代史に関する基本資料を通じて、奈良時代から平安時代までの政治、社会、信仰、生活、文化の実像について、東アジア世界との関係も視野に入れながら解説し、日本古代の歴史的な特質について理解する。あわせて、史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
		日本の歴史と文化Ⅱ (中世)		本授業は、日本の中世史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古文書、古記録、編纂物、絵画、考古資料等の歴史資料を通して、武家政権の成立過程、貨幣経済の発達や庶民の台頭を中心に、鎌倉時代から戦国時代までの歴史的・文化的動向について学習する。この学びを通じて、中世社会が列島各地で多様な展開を遂げ、そこから近世社会の枠組みがどのように出現していくのか理解する。あわせて、史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
		日本の歴史と文化Ⅲ (近世)		本授業は、日本の近世史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古文書、古記録、編纂物、絵図、考古資料等の歴史資料を通じて、ヨーロッパ等の諸外国との交流をも視野に入れつつ近世社会の形成について考察し、江戸時代を通しての政治、産業・経済、文化や学問・思想等の展開の諸相を学習する。この学びを通じて、近世の日本に関する基礎知識を修得し、あわせて史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
		日本の歴史と文化Ⅳ (近代)		本授業は、日本の近代史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古文書、古記録、編纂物等の歴史資料を通じて、日本の近代が芽生えた幕末の社会、その後の明治維新と明治国家の成立、帝国日本の誕生から戦時体制等、明治から第2次世界大戦までの日本の歴史的・文化的展開について学習する。この学びを通じて、近代日本に関する基礎知識を修得し、あわせて史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
		文化交流史Ⅰ		本授業は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、縄文時代から平安時代までの日本と諸外国との交流の事例を取り上げ、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義や、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかなどについて考察する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	伝統 日本 研究 科目	文化交流史Ⅱ		本授業は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、平安・鎌倉時代から幕末までの日本と諸外国との交流の歴史を振り返り、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史の変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかについて考察する。	
		日本の文化財		本授業は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本の文化財保護の歩みを踏まえて文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、各時代が生み出した文化財の概要と、その鑑賞・調査方法、および活用方法などを学習する。	
		歴史資料論		本授業は、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学び、近世以降の古文書等の原本史料の読解方法、調査・整理方法について学習する。なお必要に応じて、学外の博物館・資料館に行き、原本史料を閲覧・調査し、歴史資料を扱うための実践的な学習を行う。	
		日本の宗教と思想		本授業は、日本の文化のうち特にその精神に関わる事象を歴史的展開とともに学び、日本人の心の文化に対する価値観や、そこから生ずる個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本古代の神の概念や、神道や仏教を背景とする行事など、宗教と思想から派生する諸文化を学びつつ、それぞれの時代における特徴について考察する。なお、海外から評価されるさまざまな日本の精神文化や関連する世界遺産などについても学ぶ。	
		日本の伝統芸能		本授業は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸能の全体像を把握することを目的とする。具体的には、神楽、能、文楽、歌舞伎などの日本を代表する演劇をはじめ、映画・歌謡・舞踊・落語などのさまざまな芸能文化について解説する。また必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、伝統的な古典芸能とともに、現代の新しい芸能文化についても幅広く学ぶ。なお、大学の地元である稲城市の里神楽について知り、身近な日本の伝統芸能についても親しむ。	
	現代 日本 研究 科目	近現代文学入門	○	本授業は、日本の近代現代文学に関する基礎的な知識を学び、文学を研究するための基礎的な概念を理解することを目的とする。近現代の文学史について概説したうえで、具体的には中学校や高等学校の国語教材としてもよく知られている作品群を取り上げ、典拠との比較や語りの分析など、文学研究としてのアプローチの方法を説明する。先行研究における問題点等を理解することにより、中学・高校の授業とは違う観点から近現代の文学作品をとらえる力を修得する。	
		日本語学概論Ⅰ		本授業は、日本語の特質を理解し、日本語学研究の基礎を確立することを目的とする。具体的には、主に現代日本語を考察対象として、その特徴について、音声・音韻論、文字・表記論、文法論、語彙論の基本的な事項について概説する。また、日本語の表現方法についても考察していく。普段何気なく使っている日本語に関心を持ち、興味を深めるとともに、客観的にその特徴を理解し、説明できるようにするとともに、問題意識を持って日本語を考察する力を修得する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	現代日本研究科目	日本語学概論Ⅱ		本授業は、日本語の特質を理解し、日本語学を研究するための実践的な知識を修得することを目的とする。具体的には日本語の意味論、位相、敬語、社会とことばなど、各分野の研究について紹介しながら、応用分野の基本的な事項について概説していく。日本語の特質を理解し、説明できるようにするとともに、さまざまな角度から日本語を考察することで、自分なりの問題意識をもって日本語と向かいあい、研究する姿勢を身につけるように導く。	
		現代日本語学Ⅰ	○	本授業は、現代日本語を対象としつつ、特に小中高等学校で扱う学校文法について概観するとともに、現代の日本語文法について歴史的な言語変化という観点から理解を深めることを目的とする。具体的には、現代の学校文法の基礎を理解し、品詞の働きについて深く学ぶ。この考察を通して現代日本語の文法と、古典語の文法との関わりや、日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるように導く。	
		現代日本語学Ⅱ		本授業は、現代日本語の語彙に関する知識を修得することを目的とする。具体的には、語の音声、意味、語構成、文法、位相の違い等について、現代における指針・規則や国語教育における扱いなどを紹介しつつ、過去から現在にかけてどのような変遷をたどってきたのか、各時代の文学作品や国語辞書等の用例を示しながら解説する。日本語の語彙の特徴について理解し、説明できるようにするとともに、日本語で書かれたさまざまな文章を通して、語彙についての理解を深めることができる力を身につける。	
		日本の近代文学		本授業は、明治期から昭和初期にかけて活躍した作家の小説を通して、近代の文学の特質を探ることを目的とする。具体的には夏目漱石や志賀直哉、谷崎潤一郎等の小説作品を取り上げ、作家の概要、作品の内容などを学修するとともに、各作品の時代背景についても考察し、小説作品の同時代的意義を深く考察する。その上で人物の造形や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を通して受講者自身の意見形成を重視した授業展開を行う。	
		日本の現代文学		本授業は、第2次世界大戦後から現在までの小説について、世界の文学の中での日本の文学、インターネット時代の日本の文学といった現代的視点を意識しつつ深く考察することを目的とする。具体的には、戦後日本の文学を領導した諸作家の作品の概要を理解したうえで、現代の小説にも考察の範囲を広げる。外国人が日本の小説をどのようにとらえているか、インターネットの時代を迎え日本文学はどのような道をたどるか、など現代を生きる自分自身の観点を確立して作品に向かい合う姿勢を養う。	
		子どもと日本の文化		本授業は、近代以降の児童文学史の特質と歴史性を考察し、子どもの文化における児童文学の意義と役割について理解することを目的とする。具体的には、日本の近代児童文学に重要な影響を与えた『赤い鳥』をはじめとする児童雑誌等を取り上げ、昭和期の戦争と敗戦を経て、児童文学がどのように変化しながら現代へと続いていくのかを考察する。あわせて各時代の子どものめぐる文化事象（子供向けとされる映像作品や遊戯等）にも目を向け現代人としての興味、関心を持って子どもの文化に向かい合う姿勢を養う。	
		地域文化概論		本授業は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、大学所在地である稲城市の祭礼・年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。適宜フィールドワークも実施する。また、地域文化を知識として理解するにとどまらず、自らが地域文化を追求する方法を身につけるために受講者各自の地元を事例として地域文化に関する発表を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	現代日本研究科目	現代〈禅〉文化論		本授業は、「禅」の歴史と意義を考察することを通して、特に現代の生活において〈禅〉の思想がどのような意義を有するのかを深く考察することを目的とする。「禅」に関しては教養教育科目においても学ぶところがあるが、本授業では過去の歴史の中の「禅文化」を理解することにとどまらず、現代社会において「禅」が果たしている役割と、また果たすべき役割とを学生自らの考察を通して浮き彫りにし、自らの生活の中に〈禅〉を生かしていく方途を探る。	
		デジタル文化論		本授業は、「人工知能」をテーマとして、デジタルテクノロジーと現代日本文化について解説する。授業ではまず、人工知能によるデジタル化にともなう社会問題の様々な論点について概観する。さらに、現代の人工知能（第三次ブーム）に至るまでの歴史について第一次ブームにまで遡って紹介することで、人工知能の現象論的な諸問題の背景をなす根本的な問題について概説する。これらの基礎を踏まえて最終的には、文化論としてさらに一步踏み込み、現代テクノロジーの思想的背景としての西洋文化の理解をめぐる諸問題や、日本のような非西洋文化への現代テクノロジーの導入（近代化、グローバル化）にまつわる諸問題など、現代日本文化研究としてのテクノロジー論を国際的な視野から俯瞰する。	
		ポピュラーカルチャー論		本授業は、戦前・戦後から現代におよぶポピュラーカルチャーについて、その歴史的展開と現代の成果を、関連する他の文化との関連を意識しつつ理解することを目的とする。具体的には日本のマンガ文化やアニメーション文化を中心として、昭和期において児童向けとされた分野がメディアの変化とともに幅広い世代に浸透し、現代では海外からも日本文化の中心として注目されるに至った経緯について考察を行う。あわせてマンガ等を取り巻く社会状況や送り手・受け手の変化など、ポピュラーカルチャーを支える母体の特徴や課題についても考察する。	
		現代日本の音楽と映像文化		本授業は、現代の音楽に関する文化の状況について理解を深めることを目的とする。具体的には戦後から現代にかけての音楽と映像文化の進展の歴史を概説し、現代における可能性や問題点を考察する。近代以降日本は西洋音楽を取り入れて学校教育でも「音楽」を設置し、民間においても流行歌が文化の中で大きな役割を果たしてきたが、インターネット社会の成立とともに音楽文化も大きく変化した。また戦後テレビを中心とした映像文化は、現代ではYouTubeやTikTokのようなインターネット時代の文化とともに考察することが求められる。講義では、ポピュラー音楽を中心とした音楽文化、そして映像文化の諸相を視野に入れた史的考察を踏まえての現代文化論として音楽と映像について考察する。	
	国際日本研究科目	多文化共生論	○	本授業では、私たちの周りの「多文化」化に目を向けながら、異なる文化、言語、宗教などを有する人々とのコミュニケーションの現状と課題を考察し、グローバルな時代の生き方や多文化との共生のあり方を考察する。経済、社会、文化などのグローバル化にともない、海外で仕事や生活をする日本人は今後も増加するであろうし、日本国内で暮らす外国人も一層増加することが見込まれる。そこに生じる文化的な摩擦を解決することは今日においては重要な課題となっている。このような問題意識のもとグローバルな社会をどのように生きるかを真摯に考える姿勢を養う。	
		異文化理解Ⅰ		「異文化理解」の授業では、外国語の背景にある文化の多様性を学び、日本人にとって異文化理解の課題点について考える。互いの理解のための方策を解説しながら、英語圏の国々の歴史、社会、文化を学ぶと共に、それらに対する日本人の反応について検証する。本授業「異文化理解Ⅰ」ではイギリスを中心とした国々の文化、歴史、社会について学ぶ。	
		異文化理解Ⅱ		「異文化理解」の授業では、外国語の背景にある文化の多様性を学び、日本人にとって異文化理解の課題点について考える。互いの理解のための方策を解説しながら、英語圏の国々の歴史、社会、文化を学ぶと共に、それらに対する日本人の反応について検証する。本授業「異文化理解Ⅱ」では、アメリカ・カナダと英語使用のアジアとアフリカ圏の文化について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	国際日本研究科目	グローバリズムと日本		現代社会は、多国間の人的・物的交流の上に成り立っている。文化面においても国内だけで完結するのではなく、諸外国との関連の中で事業展開が図られることが標準化している。そうした現代社会への認識のもと、グローバルな多国間交流のなかでの日本の位置を再確認する。具体的には国際連合や世界的な諸機関の意義とその役割、それらにおける日本の貢献、また民間におけるグローバル展開の将来と課題とを考察する。	
		国際社会と日本の憲法		現代の国際社会は、日本国憲法が前提とした国際社会と比較するとどのように変化し、その変化が憲法の解釈にどのような変化をもたらしてきたのか。第二次世界大戦後の冷戦構造とその崩壊を経て21世紀の今日に至る国際社会の変化の中で、日本国憲法が定めた統治機構と人権保障のあり方がどのような影響を受け、変化してきたのか。本授業では、国際社会の変化の中で成立した憲法典の原意とその解釈の変化を跡づけ、国際社会との関連で憲法の目的と機能を考える能力を養うことを目的として講義を行う。	
		国際教育論	○	現代では、日本の教育に対する海外からの関心が高くなっている一方で、海外において日本および日本文化がどのように学ばれているのかを日本人自身が把握していないという現状がある。本授業では、英語教育のあり方を一つの事例とし、各回国内外の教育が直面している諸問題を整理することによって、国際的なレベルでの教育のあり方を広く考察する。	
		日本と英文学		本授業は、近代日本の文学や文化面に多大な影響をあたえ、今日でも影響のある英文学の世界を、日本における受容という観点から考察する。具体的にはシェイクスピアの作品の講読を中心としつつ、日本語への翻訳の歴史や演劇等への影響についても考察を深め、さらには現代英文学のうち、推理小説やファンタジー小説など身近な作品群が日本文化に与えている影響についても言及する。一つの英語作品を理解するということだけにとどまらず、そこから広く文化・社会について興味関心を持つ姿勢を養う。	
		現代ヨーロッパ社会論		18世紀の産業革命以降、ヨーロッパ（西欧）は、経済、政治、社会の近代化において世界をリードし、日本や他の後進地域が模倣する存在であった。そのヨーロッパは、現在、ロシアのウクライナ侵攻、NATOの拡大、英国のEU離脱、極右政党の台頭、欧州全体のエネルギー問題、移民・難民の受け入れと社会的包摂、ホームグロウンテロリストの存在など、多岐にわたる課題が顕在化している。と同時に、ジェンダー政策、少子化対策等において欧州各国（西欧、北欧）は、概して先進地域となっている。本授業では、日本におけるヨーロッパの歴史的な影響を把握した上で、激動する今日のヨーロッパ社会を多元的に考察する。	
		ジャパン・スタディ		本授業は、現代日本の文化について、食文化、消費文化、日常生活、家族と宗教等を中心に国際的な研究とのレファレンスを意識しつつ、日本文化の基礎知識を海外へ発信・紹介する力を養うことを目的とする。あわせて、西洋社会が日本の文化を研究・受容してきた歴史を振り返り、そこから日本の文化理解のあり方について自省的に考察を深める。近代日本における前時代文化の扱いと、海外からの日本文化理解とを比較しながら考察し、海外のジャパノロジーの視点を通して日本文化を見直す視野を養成する。	
		英語で日本文化		本授業は、日本文化を広く発信するために日本の文化事象を英語で解説できるだけの英語能力の習得を目的とする。日本人が自国の文化を外国からの訪問者に対して解説する必要性は年々増している。その一方で、日本文化を英語で解説することは、日本人にとっても新たな視点から自国の文化を眺める格好の機会となる。当然とみなしている日本文化にはどのような背景があるのか、それを英語で表現する鍛錬を通じ、自身による言語・文化観の陶冶につながることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	国際日本研究科目	英語でボランティア		(英文) This course develops practical English skills for participation in volunteer activities. Students will develop an understanding of a wide variety of volunteer activities, and establish the communicative skills necessary to explain these to other people in English. In addition to general practical English skills, students will work on context specific vocabulary and problem solving communication strategies. A key aspect of assessed output in this course involves students' contributions to an ongoing project which aims to develop a Japanese/English phrasebook for volunteer activities that could in future be made available online for actual use in volunteer work. (和訳) この授業は、ボランティア活動に関わる実践的英語のスキルを学ぶことを目的とする。様々なボランティア活動について学ぶとともに、他の人々に英語でボランティアについて説明するコミュニケーションスキルを学習する。また、語彙を学んだり、問題解決学習を行ったりする。この授業を履修学生は、最終的にはボランティア活動で実際に活用できる、オンラインの日英対訳付のボランティア会話集を作成する。	
		太平洋地域の文化と社会		太平洋地域には太平洋島嶼国と呼ばれる14の国々がある。中でも、パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島の3カ国は、戦前に日本が国際連盟委任統治領として統治した歴史があり、その文化と社会には日本時代の痕跡が色濃く残っている。その他の諸国についても、日本の政府開発援助（ODA）が発展に大きく寄与するなど、現地では日本に対する関心と期待が強くみられる。今後、日本が国際社会の中でその地位をさらに高めていくためにも、太平洋島嶼国の文化と社会に対する理解が一定の重要性をもつ。そのため、本授業では太平洋島嶼国の社会と文化の特徴を紹介し、日本の文化および社会と対比することで両者の特徴と共通性を明らかにし、相互理解を深めることを目的とする。	
		東アジアの文学		本授業は、中国の思想書や史書などを通して、中国の歴史や文化への理解を深め、中国文化が東アジア、特に日本に与えた影響の大きさを考えることを目的とする。具体的には、中国思想史の流れや代表的な思想家について説明するとともに、それら古典が各時代にどのように享受されたかを、時代状況と関係づけながら解説する。関連して現代の中国文学について言及することもある。中国文化が日本に与えた影響について、自分なりの言葉で説明する力を身につける。	
		韓国の文化		本授業は、近年、ドラマ・映画・音楽等でわが国にも影響の大きい韓国の現代文化について、その言語とともに考察することを目的とする。具体的には韓国語の初歩について学び、韓国語の基礎となるハングルの仕組みを理解したうえで、ドラマ・映画等の映像資料も活用しながら、現代の韓国文化の特質について考察を深める。韓国語の基礎を理解し、初歩的な韓国語での会話ができる力を養う。	
	専門ゼミ科目	国際日本学ゼミⅠ	○	本授業は、国際日本学科の学びを通して各自が設定したテーマについて演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本の文化に関する基礎知識・専門知識を修得するとともに自らの考察を発信する能力を高めることを目的とする。具体的には、日本文化に関わる諸文献の熟読を通して研究方法の習得を促し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。	
		国際日本学ゼミⅡ	○	本授業は、国際日本学科の学びを通して各自が設定したテーマについて演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本の文化に関する専門知識を修得するとともに自らの考察を発信する能力を高めることを目的とする。具体的には、日本文化に関わる諸文献の熟読をととして研究方法を確立し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また、国際日本学ゼミⅠで習得した知識に基づいて、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。さらには実践的な論文指導も行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	専門ゼミ科目	国際日本学ゼミⅢ	○	本授業は、国際日本学科の学びを通して各自が設定したテーマについて演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本の文化に関する専門知識を修得するとともに自らの考察を発信する能力を高めることを目的とする。具体的には、日本文化に関わる諸文献の熟読をとおして研究方法を確立し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また、国際日本学ゼミⅠⅡで習得した知識に基づいて、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。さらには実践的な論文指導も行う。	
		国際日本学ゼミⅣ	○	本授業は、国際日本学科の学びを通して各自が設定したテーマについて演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本の文化に関する専門知識を修得するとともに自らの考察を発信する能力を高めることを目的とする。具体的には、日本文化に関わる諸文献の熟読をとおして研究方法を確立し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また、国際日本学ゼミⅠⅡⅢで習得した知識に基づいて、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。さらには実践的な論文指導も行う。	
		卒業論文		国際日本学科での学修を通じて特に自分が興味をいだいた事象を研究対象として選び、これまで修得してきた専門的知識をふまえて、独自の分析の視点と自分なりの問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く考察する方法を身につける。一つの目標に向かって計画を立てて粘り強く自己実現していく姿勢を養う。学習の成果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる。	
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館概論		現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本授業は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論		本授業は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館展示論		本授業は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した授業をする。	
		博物館資料保存論		本授業は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理・・・）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論		本授業は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館教育論		本授業は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら授業をする。	
		博物館情報・メディア論		本授業は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	
		博物館実習A（見学実習）		博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	
		博物館実習B（実務実習）		博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	
		博物館実習C（館園実習）		博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	

授業科目の概要					
(共創文化学部人間関係学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	建学の精神を学ぶ科目	建学の精神と仏教Ⅰ	○	本授業では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」とその基礎となる仏教の開祖・釈尊の生涯と教え、さまざまな日本の仏教文化について概説する。日本文化の形成に大きな影響を与えた仏教が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、建学の精神と仏教Ⅰの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		建学の精神と仏教Ⅱ	○	本授業は、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基礎となる曹洞宗の開祖・道元禅師の生涯と教え、さまざまな日本の禅文化について概説する。日本文化に大きな影響を与えた禅の教えが今を生きる私たちの日常生活にどのように関わり合ってくるのか、建学の精神と仏教Ⅱの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
	人間を学ぶ科目	哲学		生命倫理の問題、環境問題、人種とテロリズム、社会的格差の問題などに象徴されるように、現代は、人間存在をめぐる哲学的・思想的な省察が求められている時代である。本授業では哲学史のなかで繰り広げられてきた主要な命題と論点を概説する。それによって、現代社会のさまざまな倫理的課題を各自で考察できるようになることが本授業の目的である。現在起こっている社会的な問題について本質的に議論し、自分の見解を明確に表現できるようになることを到達目標としたい。	
		人間と思想		人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなもののなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。また、倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことを目指す。	
人間と文化			本授業では、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。また、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。		
		生命の科学		「そもそも私とはなにか？」から問を発し、「私」が生まれてきた道筋である生命の進化を学び、「私」を構成している分子や細胞、DNAについて触れ、生物のからだのつくりや仕組みといった生命科学の基礎知識について学ぶ。さらに生命科学分野の進歩とりわけバイオテクノロジーの医療応用に伴って多様な問題が生じているが、それらの問題解決への道筋、そして我々の未来について考えていく。本授業の内容には女性という視点を取り入れ分かり易く講義する。授業の進め方としては、パワポによる講義だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、講義内容を具体的に理解できるように工夫していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人間を学ぶ科目	倫理学		本授業では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
		女性と人権		本授業では、人が社会生活を営む上で最も基本的な人と人との関係を規定する規範としての法学を通して、市民と法との関わり方、という観点から、日本の法のあり方について検討する。日常の社会生活での具体的問題、特に「女性の権利」に関わる問題を素材に、法的なものの考え方（リーガルマインド）を説明し、現代の法がどのようなことを定めているのか、またそれはどのように形成されてきたのか、さらには、どのように評価するべきかを考察する。	
		心理学		本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。心理学では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第2回）、情報はどのように整理されるのか（第3回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第4回、5回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第6回、9-10回）及び発達障害（第7回、8回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第11-13回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第14回では心理療法の1つである「認知行動療法」について学ぶ。	
		生涯学習論Ⅰ		本授業は、生涯学習の意義・目的や定義を学び、生涯学習社会の実現について討論することから始める。また、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学び、生涯学習の多様な在り方についての理解を深める。そして、国際社会が目指す人間像や生涯「学修」の特性を踏まえ、自身の長期的な学修課題について考察を深めていく。そのため、講義毎に「学びのドキュメンテーション」を作成することを求める。自身の学修プロセスの記録や振り返りを通じ、学修課題の明確化に役立ててほしい。	
		生涯学習論Ⅱ		本授業は、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、自身の学修課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発・宣伝する活動を行う（自身の学修課題に基づく課題解決型学習とプレゼンテーションを行う）。特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした授業では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学ぶだけではなく、学習成果の評価や振り返る方法についても学ぶ。	
		社会福祉概論Ⅰ		本授業は、社会福祉論という領域の基本を学習する。まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
		社会福祉概論Ⅱ		本授業は、社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本の文化と歴史		本授業は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。学生各自が「歴史」をより深く学ぶことで培った視角や問題認識をもとに、現代日本社会の諸問題も考えることができるようになる。	
		世界の文化と歴史		本授業は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本授業は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
		民俗学		本授業は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		考古学		本授業は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学		本授業は、産業と人びとの暮らしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業と暮らしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		戦争と平和の歴史Ⅰ		戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、本授業では19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思想方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
		戦争と平和の歴史Ⅱ		戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、本授業では第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思想方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	文化と歴史を学ぶ科目	西洋文化史		本授業では、ルネサンス以降の西洋社会における文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、その発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から20世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究する。	
		日本美術史		本授業は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		比較文化		本授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
		観光地理（日本）		本授業では、観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高めることを目的とする。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、授業で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
		観光地理（世界）		本授業は、グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣・魅力などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付けることを目的とする。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、授業の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
	社会と自然を学ぶ科目	日本の政治		本授業では、日本の政治を戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当て、その軌跡から日本政治の特徴を探ることを目標とする。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家や官僚任せの人生を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いた講義とする。	
		世界の政治		本授業では、国際社会における諸問題や日本のポジションを探ることを目標とする。国際社会で日本は”異質な国家”とみなされるケースが多々ある。なぜ日本は世界から”異質”に思われるのか？日本が”異質な国家”と思われる構造を国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の特徴から検証する。また、日本を取り巻く国際社会のアップデートな問題も取り上げ、教養を深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会と自然を学ぶ科目	日本の経済		本授業では、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
		世界の経済		現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を見無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本授業は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。なお、世界経済の現状について、経済学の基礎的手法や統計データなどを用いることにより学修し、最終的に、貿易政策や他国との関係、時事問題を理解する力を養う。	
		政治と市民参加		現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。本授業は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
		法学		私たちの生活は、法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限する。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな二つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務である。本授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをいねいに伝えていく。身近な裁判例なども紹介し、新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
		法と社会		法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段である。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがある。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論である。本授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝え、未解決な社会問題を考える際に、ひとつの指標を提供したい。個々の法のあり方を具体的に紹介した上で、現代社会の抱える高齢社会の問題についても考える。	
		日本国憲法Ⅰ		日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
		日本国憲法Ⅱ		現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。本授業では、こうした国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐる議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会と自然を学ぶ科目	社会学Ⅰ		「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている21世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。本授業は、この社会学の基本的な考え方を、「再帰性」をキーワードに、伝統や宗教などの具体的なトピックを上げながら解説する。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前のこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
		社会学Ⅱ		本授業では、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、身体、医療をめぐる現代社会の問題といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、身体、医療の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
		数学の世界		数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本授業は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、数と式（整式・因数分解、一次方程式・連立方程式）、関数（一次関数、二次関数、二次方程式）、図形の性質（合同・相似・三平方の定理、円の性質）、図形と計量（三角比、三角関数、三角形への応用）、場合の数（順列・組合せ）、確率、整数の性質（約数と倍数）等について学ぶ。	
		物理の世界		物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。本授業では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。具体的には、物理学で扱う単位と数学的知識、物体の運動、力学、仕事とエネルギー、熱とエネルギー、音とは何か、電気とは何か、身の回りの物理学等について学ぶ。	
		生物と生命		生物学、生態学、人類学、環境科学をディシプリンとして、ヒトを中心とした生物と環境との関りを学ぶとともに、人間が営む脱生物学的活動が生態系サービスにどのような影響を与え、その結果引き起こされる環境問題についても学ぶ。さらに、人類存続が可能な関係を再構築するために「科学リテラシー」を身に着けることの必要性を理解する。授業の進め方としては、パワポによる授業だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、授業内容を具体的に理解できるように工夫していく。	
		地球と宇宙		古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本授業は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	
		色彩と科学		本授業は、視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
		統計の基礎		本授業は、統計学のなかでも、より基礎的な「記述統計学」の習得をテーマとする。記述統計学の狙いは、与えられたデータを、特徴がわかりやすくなるようにまとめることである。本授業では、平均値のような単純なまとめ方からスタートし、より高度なまとめ方までを段階的に理解することを目指す。具体的には、1変数の統計的分析、2変数の統計的分析、量的変数と質的変数の違い、4つの尺度の区別、3変数の統計的分析等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	実習科目	地域共創活動実習		自分にもできることを通じて、様々な人々と関わり、社会における新しい価値や視点を協働して見出すことを目標とする。本科目で言う共創活動とは、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などにおけるボランティアを通して様々な立場の人と交流することを意味する。授業の主な進め方としては、①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出等が義務づけられる。	
		国際協力実習		グローバル化が進展し、世界が緊密になりつつある昨今、国際協力は幅広い意味を持ち、その手法も多様化している。国際協力実習では、特に途上国での開発支援を念頭に、協力の現場である現地を訪ね、社会・経済状況を視察し、人々と交流を行いながら、自ら国際協力を実践し、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。訪問国についての情報収集、実習の準備と実習を中心とし、ディスカッションやプレゼンテーションによりコミュニケーション力を高め、国際協力への理解を深める。	
		海外英語研修Ⅰ		本授業は、研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
		海外英語研修Ⅱ		本授業は、「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
		English Summer Seminar		(英文) This course will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will feel more confident in her ability to communicate in English, in addition, make new friendships with all participants. (和訳) 英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。2名の英語教員が協働でグループをマネジメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
	就業力育成科目	キャリアデザインⅠ	○	本授業は、自分らしく人生を生きるためのキャリア形成能力と社会に旅立つ準備としての就業力の育成を目指す。複数のワークを通して将来について考える機会をもち、目標を思い描くことによって今後の大学生活を有意義に過ごせるよう働きかける。そのうえで将来目標と大学全体や専門領域での学びを結びつけることで、学修への動機づけを高めることを目標とする。また、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動できるよう、基礎的な知識とスキルを身に付け、ペアワークやグループディスカッション、ライティングなどのアクティブラーニングを中心に据えることで、コミュニケーション力と文章力をも高めてる。以上の学修を通じて、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「キャリアプランニング能力」および「人間関係形成能力」を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	就業力育成科目	キャリアデザインⅡ	○	キャリアデザインⅠの授業を進展させ、本講義では将来目標をさらに具体的に思い描き、それを実現できるよう就職活動に関する実践的学修を中心に進める。具体的には、①自己の興味関心や強みを理解するワークを実施し目標を明確化すること、②業種や職種について調べることで進路選択の幅を拡げること、③履歴書の書き方やインターンシップ対策など就職活動時に必要とされる知識やスキルを獲得することにより就職活動での主体的な動き方を学ぶことの3点によって、自信をもって今後の進路選択に臨めるように準備することを目標とする。ペアワークやグループディスカッション、ライティングなどのアクティブラーニングを実施することで、コミュニケーション力と文章力をも高める。以上の学修を通じて、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「自己理解・自己管理能力」および「人間関係形成能力」を育成する。	
		キャリアデザインⅢ		キャリアデザインⅠ・Ⅱで修得した知識やスキルを活用しながら、将来を切り開き、目標を実現するための更なる就業力向上を目指す。就職活動スケジュールについて改めて学習し、エントリーする企業を決めるための企業研究を行い、自分の強みを活かした自己PRについて考え、企業を想定したプレゼンテーションを行う。また、テーマを設定したグループディスカッションを行うことで他者の考えを理解し受け入れながら協同する力、様々な課題を発見・分析する力、考えた内容を相手に伝える発信力を育成する。以上の学修を通じて、本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「人間関係形成能力」および「課題対応能力」を育成する。	
		キャリアデザインⅣ		キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲで修得した知識やスキルを活用しながら、描いた将来や目標を実現するための更なる就業力向上と総合的なスキルの獲得を目指す。具体的には、インターンシップへのエントリーを模擬的にを行い、履歴書の作成を実際に行うこと等を通して実践的に学び、自己の特長について改めて振り返り、これまでの大学生活でどのような経験をしたのか、そこからの学びは何かを考え他者と共有することで、自己のアピールポイントを発見する。また、受講生同士での質疑応答やグループディスカッションを実施することで他者と協同する力、課題発見力、相手に伝わる発信力をさらに向上させる。以上の学修を通じて、本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成能力」「課題対応能力」を育成する。	
		ビジネス・キャリア演習		将来の予測が困難で不確実性の高くなった昨今においては、ビジネスシーンにおいても個人の人生においても未知の課題を解決しなければならない状況が増加している。本授業では、企業や社会における問題を想定し、グループで課題解決に向けてアイデアを捻出し、実行する手段について考え、実際に解決に向けて協同するという演習型で実施する。様々な課題に取り組むことを通じて、問題解決能力の向上とともにグループでのコミュニケーション力やチームワークを醸成する。本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「課題対応能力」および「人間関係形成能力」を実践的に育成する。	
	健康体育科目	女性とウェルビーイングⅠ		本授業では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。女性とウェルビーイングⅠでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。本授業を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に付け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
		女性とウェルビーイングⅡ		本授業では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた授業とする。女性とウェルビーイングⅡでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
		スポーツⅠ		健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	健康体育科目	スポーツⅡ		自分の身体とは一生つきあって行かねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	○	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目標とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
		言語表現演習Ⅱ	○	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	
	外国語育成科目	英語（会話表現）Ⅰ	○	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅱ	○	英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅲ		英語（会話表現）Ⅰ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅳ		英語（会話表現）Ⅲを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養 科目	外国語 育成 科目	英語（読解）Ⅰ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅱ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅲ		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
		英語（読解）Ⅳ		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	
		英会話Ⅰ		（英文） This class focuses primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real-world topics are provided and students are given language structures that will help them in a variety of real-life situations. Through a combination of pair and group work, students are given a variety of activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳） この授業では、リーディングとライティング指導も行いつつ、主にスピーキングとリスニングの上達に重点を置く。自然で実際に使われている会話形式を取り上げ、発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	英会話Ⅱ		(英文) This class builds on English Conversation I and continues to strengthen students' communication skills in English. Special attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversation topics. Real-world media will be used as a springboard for meaningful interaction. Interactive structures related to communication in modern English will be provided and students will be given the opportunity to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. (和訳) 「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語でのコミュニケーション能力を強化することを目指す。特に、口語英語について積極的に知識を身につけ、一般的で最新の様々な会話トピックについて対話する能力を養う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
		英会話Ⅲ		(英文) This class builds on the content of English Conversation I and II and provides students with training in a deeper level of natural English communication. Special emphasis will be placed on sustaining conversations over longer periods of time. To achieve this goal, students will be exposed to various methods of turn-taking and conversational strategies related to forming follow-up questions and pausing in conversation. Students will work on achieving natural English rhythm in their speech with the goal of improving their overall fluency. (和訳) 「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、より深いレベルの自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」(会話を途切らすという会話の技法)を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	
		英会話Ⅳ		(英文) This final course in English Conversation will synthesize the practices learned so far with the goal of making students confident and natural in their English communication style. Students will work on maintaining fluent, extended conversations about relevant current events and topics. The differences between casual and more formal conversations will be studied. Pragmatics in relation to American and British culture will also be examined, with particular emphasis on hedging and expressing disagreement. Students will become sensitive to cultural differences among native English speakers and how to interact appropriately in a variety of international situations. (和訳) 「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
		フランス語Ⅰ		本授業では、主にフランス語未習者を対象に、フランス語の読み・書き・会話の基礎力を養成することをテーマとする。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	フランス語Ⅱ		フランス語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
		フランス語Ⅲ		フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
		フランス語Ⅳ		フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	
		ドイツ語Ⅰ		主にドイツ語未習者を対象に、ドイツ語文法の基礎内容を学習し、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。具体的な文法事項としては、アルファベットの読み方から発音の確認をはじめ、簡単な挨拶の表現を経て、ドイツ語学習の基本である人称代名詞、動詞の現在形の活用、ドイツ語の語順、冠詞のつかいかたとその活用の習得までを目指す。また、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより高めることを重要なことと考えている。	
		ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。	
		ドイツ語Ⅲ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱの受講を経た学生を対象に更なる文法学習を進め、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」の授業における既習内容の復習から始め、さらに発展的な文法内容を確認し、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより一層高めることを目標とする。	
		ドイツ語Ⅳ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。時制や関係代名詞についての全体的な確認と受動態・仮定法などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。ドイツ語で書かれた文章に多く触れることで、初級ドイツ語文法の総括的な習得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	韓国語Ⅰ		本授業では、主に韓国語未習者を対象に、韓国語文法の基礎内容を学習し、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する初歩的な理解を身につけることを目指す。具体的には、文法理解に加え、読み・書き・会話の基礎力を育成することが目標となり、表記と発音の関係を学び、特徴的な発音法を理解し、韓国語学習の基本の習得を目指す。日本と韓国の文化比較や社会事情などに関したテーマを扱い、学生の関心をより高めることを重視していく。	
		韓国語Ⅱ		韓国語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進め、既習の語彙・文法を復習しながら語彙力・表現力を高める。会話表現については、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、基礎的な「受信・発信」ができる力を身につける。自分のことについて話すことができ、かつ相手についての簡単な質問ができることをめざし、韓国語による会話能力の向上を図る。	
		韓国語Ⅲ		韓国語Ⅰ・Ⅱの受講を経た学生を対象にさらなる学習を進め、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の授業における既習内容の復習からはじめ、さらに発展的な文法内容を確認し、易しい文章の読解、作文などを盛り込み、韓国語の運用能力をバランスよく鍛える。会話表現については、語彙力、表現力をさらに高め、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、簡単な質問を正確に聞き取れるようトレーニングを行っていく。	
		韓国語Ⅳ		韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を振り返りつつ、基礎文法についてさらに理解を深める。文法事項、単語などを繰り返し確認することで知識の定着を目指し、韓国語で書かれた文章に多く触れることで初級韓国語文法の総括的な習得を目指す。会話表現については、身近な話題についてある程度会話を続けられる力をつけるために、テキストの例文・本文の暗誦や教室学習を通じ、文字に頼らずに会話ができるヒアリング力と発話力を高め、総合的な会話力を身に付ける。	
		中国語Ⅰ		本授業では、主に中国語未習者を対象に、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諸否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
		中国語Ⅱ		中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身につけた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
		中国語Ⅲ		中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	中国語Ⅳ		中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
	情報力育成科目	ICTリテラシーの基礎	○	ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化が著しい。コンピュータ中心だった情報処理からスマートフォンやタブレット端末が主流の情報共有に変化し、情報そのものも複雑化してきた。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業など私たちの生活を一変させるものであった。また、小中高においても情報活用能力の育成とICT活用が新学習指導要領のもと全面实施された。こうした中、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行う。	
		ICTリテラシーの応用	○	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目標とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。総合的にICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって授業を行い、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に、数値処理や統計処理など基礎ゼミや専門ゼミ、授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて実務的な演習を行う。	
	特設科目 留学生	日本語Ⅰ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。	
		日本語Ⅱ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。	
		日本語Ⅲ	○	総合的な日本語力の向上を目指す。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。口頭要約表現や意見表明および論理的に相手を説得する方法を身につける。また、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。この授業では発表とディスカッションを行う。	
		日本語Ⅳ	○	パネルディスカッション、グラフを使った意見表明のスピーチ、ディベート（1対1）を通して、聴解力と口頭表現能力をさらに伸ばすことを目標とする。資料の読解、原稿やレポートの作成によって、総合的に日本語力が向上することを目指す。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。この授業ではディスカッションを行う。	
		日本事情Ⅰ	○	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目指す。また、日本社会でも特に教育や日常生活などさまざまな場面でみられる日本文化について、これまで得てきた知識を確認しながら、さらにそれを深めていくことを目的とする。具体的には、日本の教育制度、若者の就業意識・日本人の労働意識、年中行事、訪問や食事のマナー、季節のあいさつ、伝統芸能・祭りなど、日本の教育と文化について理解を深める。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養 科目	特設 科目 留学生	日本事情Ⅱ	○	本授業は、日本で用いられている文字、あるいはそれを使って書かれた小説をはじめとする文学作品に目を向け、折々の季節に応じた風習、突発的な出来事に対し日本ではどのようにしているか、などについても触れ、日本文化に対する知識を深めることを目標とする。具体的には、手紙文（形式・書き方）、日本の作家や小説、日本の詩人や詩、短歌、俳句、川柳、祝儀、不祝儀、季節のあいさつ（年賀状）、クール・ジャパン、昔話、折り紙など、日本の教育と文化について理解を深める。	
		日本事情Ⅲ	○	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目標とする。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどのタスクを通じて、自分の意見を発信できる能力を養う。具体的には、日本ってどんな国?、都市の暮らし・地方の暮らし、日本の旅を楽しもう、いただきます!、季節を楽しむ年中行事、知っておきたい日本の歴史、伝統文化体験等について学ぶ。また、母国と日本、日本の都市と地方、日本の昔と現代、など多様な視点から比較し、母国の特徴について新しく気づくことで、より具体的な意見を述べる力を身につける。	
		日本事情Ⅳ	○	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目標とする。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどのタスクを通じて、自分の意見を発信できる能力を養う。具体的には、現代文化とポップカルチャー、スポーツの楽しみ方、前進を続ける科学技術、教育と子供たち、産業構造と経済、政治と憲法、多文化共生社会を目指して等について学ぶ。また、母国と日本、日本の都市と地方、日本の昔と現代、など多様な視点から比較し、母国の特徴について新しく気づくことで、より具体的な意見を述べる力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	基礎ゼミⅠ	○	大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。受け身の態度で講義に臨むのではなく、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養う。少人数クラスでの対話を通じて、大学でなにを学ぶか、どのような大学生生活を過ごすかを考え、学生ひとりひとりが自分の目的を発見する手助けをする。また、本の読み方、講義の聞き方、講義録のとり方、意見発表の仕方等を考えさせる。	
		基礎ゼミⅡ	○	基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養う。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術を習得し、自己について理解と認識を深める。また、これらの学習を通して、卒業後にキャリアを形成していくために必要な意欲や能力、キャリア発達に関わる基礎的・汎用的能力の獲得をも目指す。ゼミは、基本的に、参加学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換によって進められる。個々のテーマをめぐって発表したり議論したりすることを通して、主体的に学ぶことの意義について理解を深める。	
		人間関係入門		（概要）人間存在の本質や、人びとが営む文化活動、人びとどうしのコミュニケーションに対して、人文科学・社会科学の諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）は、再帰的・反省的・複眼的な視座を提供する。これらの諸学問に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （2 石田 かおり・4 榎本 環・5 大貫 恵佳・7 楠田 恵美・6 倉住 友恵・8 小菅 清香・3 福王 守／1回）（共同） 人間関係学科における学びの特質、授業概要と授業目標について概説する。 （2 石田 かおり／2回） 身体文化論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （4 榎本 環／2回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （5 大貫 恵佳／2回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （7 楠田 恵美／2回） メディア論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （6 倉住 友恵／2回） 心理学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （8 小菅 清香／2回） 心理学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （3 福王 守／2回） 国際法の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。	オムニバス方式・共同（一部）
		人間関係プレゼミ	○	基礎ゼミⅠ・Ⅱの学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係学科における専門的な学びに必要な能力の育成に取り組む。専門知識の修得方法（リサーチや文献読解の手法）、適切に自身の考えを表現する方法（文章作成、ディスカッションにおける発言、プレゼン方法）について重点的に指導する。また、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4年次に向けて各自の展望と目標を明確化させる。	
		化粧の文化史	○	生存に不必要な虚飾として文化とみなされてこなかった化粧は、身体を用いた非言語コミュニケーションである。人はなぜ化粧をするのか、人間にとって化粧はどのような意味を持つのかを、化粧の歴史を通じて各時代の美意識をたどりながら考察を進める。とくに日本の化粧史に的を絞り、必用な場合には異文化と比較しながら授業を進める。単に化粧の歴史にとどまらず、受講者が自分の化粧や美に対する心構えや価値基準を顧みることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	コミュニケーションの心理学	○	コミュニケーションの仕組みやあり方をめぐる心理学的理解について解説する。本授業では、表情やしぐさ、声色、服装、立ち居振る舞いなどの非言語的コミュニケーションへの理解を深めるとともに、社会心理学における説得研究などの言語的コミュニケーションに関する知見に関しても学修する。また、アサーションや傾聴などのコミュニケーション技法について実践を通して学んでいく。	
		コミュニケーションの社会学	○	現代社会では、かつてないほどに「コミュニケーション」が重視されている。しかし、そもそも「コミュニケーション」とは何か、社会はいかにして「コミュニケーション」を重視することになったのか。本授業では、これらの問いに対して社会学的な考察を行う。コミュニケーションに関する社会学の基礎理論を修得し、それらを用いて現代のコミュニケーションを批判的に思考することをめざす。	
		ライフコースの心理学	○	ライフコースとは、個人がたどる人生の筋道を指す。本授業では、アイデンティティの確立、就労、ワークライフバランス、パートナーシップの形成、出産や育児、老年期の課題など、現在または今後直面するであろう発達課題に関する心理学的な知見を学修していく。講義を通して、今後どのような人生を生きるのか想像することで、豊かな人生を生きる知恵を修得することを目指す。	
		現代社会の論点	○	若者世代をとりまく社会環境について近年の論評やメディア情報をいくつか取り上げ、論点や問題提起を整理しながら解説するとともに、受講者間で議論・検討を行う。学生自身が日常生活のなかで身近に接している経験や社会的現象を手がかりに、そこから、「社会について考察する」という学的思考へと展開する方法を実践的に習得してもらうことを目指す。読むこと（精確な理解）、考えること（論理的思考）、話すこと（対話的コミュニケーション）の3つのスキルを高めることが具体的な学習目標である。	
		国際社会と法	○	変化し続ける国際社会において、国境を越えた法が様々な要因から形成されてきた。本授業は、かかる国際社会について国際法を通して構造的に捉えつつ考察することを主目的とする。近代以降の市民社会の変遷を踏まえ、法的知識の習得と問題分析の方法を学んだ上で、今日的諸問題を国内法的観点と国際法的観点との比較から考察していく力を身につける。	
		メディアと社会	○	インターネットやモバイル端末の普及により、私たちはかつてないような速度と広さで常時世界の人びと、団体、組織、企業などにつながっている。このような状況の背景には、情報テクノロジーはもちろん、資本主義経済の発展が大きな影響力をもつことを見逃すことはできない。本授業では、このような社会的背景を踏まえながら、双方向的であることを特徴とする新しいソーシャル・メディアの登場とそのメディア環境のなかでいきる私たちの知・身体・創造性のあり方について考察する。	
	コミュニケーション科目	身体文化論	○	身体は、社会・文化の中で意味づけられている。本授業では、「身体」の意味はどのような場で生成されているのか、その仕組みはどのようなものなのかを学ぶ。具体的には、身体を意味づけている様々な表象文化を分析する。身体について分析するための諸概念と身体に関する文化現象―美術作品、宣伝広告、ポップカルチャーの作品など―について具体的な知識を学び、そのうえで、具体的な文化現象を分析できるようになることを目標とする。	
		化粧文化論	○	本授業では、非言語コミュニケーションの1つである化粧を取り上げ、人はなぜ化粧をするのか、特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか、各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか、今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか、自分の美意識はどこから来たのかを考える。AIにはできない問題発見力と考え続ける力を養うことが最終的な目的である。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニケーション科目	ファッションと文化		本授業は、視覚資料を用いながら、現代社会と服装との関わりを学修するとともに、昨今のファッション業界のしくみを多様な角度から分析することで、私たちの生活に潤いを与えてくれるファッションの存在意義について考察する。①多様化する現代ファッションの流れについて時系列的に説明することができ、②ファッションをめぐる新しい動きを自分がどのように受け入れるべきか判断する能力を身につけることの2点を到達目標とする。	
		流行論	○	流行は、たんに服飾品・グッズなどのモノや、ブーム、トレンドのみにとどまらず、人びとの行動様式や考え方、趣味・嗜好なども含む幅広い社会現象である。流行はまた、人びとのライフスタイルやアイデンティティ、コミュニケーション行動とも密接なつながりをもっている。流行現象は、社会学的にどのように解釈できるのかをめぐり、本授業では、人びとの日常生活のなかにみられる流行現象を、社会的観点から考察するとともに、流行をトピックとして社会のなりたちを理論的に捉え返す思考力を習得することを目標とする。	
		きものの文化Ⅰ		本授業では、非言語コミュニケーションのうち身体コミュニケーション科目の1つとして、講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的とする。具体的には「きもの文化検定」5級程度の内容の前半部分として、きもの（小袖）についての一通りの知識を身に着ける前半部分で、衣類の2大分類, 原料, 染・織の種類と産地による特色の習得が目標である。	
		きものの文化Ⅱ		本授業では、非言語コミュニケーションのうち身体コミュニケーション科目の1つとして、講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的にしている。具体的には「きもの文化検定」5級程度の内容の後半部分として、帯、草履ほか和装小物等の基礎知識と、前期を含めたこれまでの学修内容を総動員して場面に応じた選択ができることと、見かけたものが何であるか判別できることが目標である。	
		恋愛の心理学	○	恋愛についての心理学的な理解を深め、その可能性について考察する。恋愛には「人間関係」のエッセンスがつまっており、恋愛の形成、発展、危機、崩壊といった過程に関する知見を学ぶことは、多様な人間関係の諸過程を理解することにつながる。一方で、「恋愛」の諸現象には、さまざまな危険が潜むのも事実であるが、他方、その精神的果実はきわめて大きい。恋愛が人格的成長におよぼすポジティブな影響について考察することにより、人間関係の可能性を広げたい。	
		自己表現法		現代を生きる私たちは、さまざまな人間関係や状況において自己を表現することを求められる。本授業では、自己を表現する効果的な方法等について、芸術・芸能関係等、表現の現場における実例を用いて研究する。こうした学びを通じて、日常生活における自己表現、面接試験等における自己アピールなどで、自分の感情や表現をコントロールし、コミュニケーションに活かせるような実践的知識の習得をめざす。	
		コミュニケーション実習Ⅰ		社会生活を営む上で人と人がコミュニケーションを取るということは必要不可欠である。本授業では、基礎的な演技レッスンをを行うことによって、実生活に応用できるコミュニケーション技術を習得する。①コミュニケーションの重要性を理解すること、②適切な発声、正しい発音ができるようになること、③自分を始点としたコミュニケーションに慣れることを目標とする。	
		コミュニケーション実習Ⅱ		コミュニケーション実習Ⅰの学修をさらに発展させ、より良い人間関係を築くために必要なコミュニケーション技術の習得を目指す。基礎的な演技レッスンをさらに発展させ、模擬的な番組制作や会議などを行うことで、コミュニケーションに対する理解を深め、スキルを向上させる。同時に、自分と相手の両方を大切にしたい自己表現法の習得を目指す実習も行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニケーション科目	セルフプロデュース		現在、メイクアップやファッションを通して、自己表現を自由に楽しむ現象がうかがえる。本授業では自分らしさについて考え、自分の強みを見つけながら、それを社会の中でどのように活かしていくかといったセルフプロデュースについて具体的に検討していく。また特に、自己呈示や印象形成、対人認知などのセルフプロデュースに関わる社会心理学の知見について学び、理解を深める。	
		メディアと心理		マスメディアやソーシャルメディアは、我々の生活に浸透し、なくてはならないものとなっている。本授業では、心理学における各メディアに関する知見について学修する。特に、各メディアの使用が精神面に及ぼす影響や、メディアの普及による対人関係の変容について学ぶことで、今後メディアをどのように活用していくのか考える機会をもつ。	
		マス・メディア論		新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・インターネットのマスを中心としたメディアについて、各メディアの歴史や、それを提供するメディア企業の成り立ちを学ぶ。メディア成立の背景を学ぶことで、メディアが発するメッセージの裏側を読み取り、メディアが発信する情報に対する理解を深める。こうした学びを通して、マスメディアの違いについて、それらの特性に関する知識と、それぞれのメディアが我々の暮らしに及ぼしている影響について考察する能力の獲得をめざす。	
	多様性・共生科目	ジェンダー論	○	「ジェンダー」および「セクシュアリティ」について、基本的な理論や概念を理解し、それらが近代社会の編成と不可分であることを学ぶ。18世紀以降の近代社会では、男性は市場労働／女性は家事・育児という性別分業と、異性愛主義が規範となった。したがって、「性」に関することながらを考察することは、私たちの基盤となっている近代社会について再考することにもなる。講義では「ジェンダー」「セクシュアリティ」に関する学説・理論、その歴史的展開、現代的課題等を総合的に学ぶことをめざす。	
		女性と社会		本授業では、家庭や地域、職場で、また政治の場で女性たちが、どのように位置づけられてきたのか、どのように自らを語り、連帯し、自身の問題を社会問題化し、社会を変革してきたのかを学ぶ。そうした歴史的過程を理解したうえで、現代の女性たちが置かれた状況を考え、さらなる社会変革のための想像力を養う。	
		社会学研究	○	本授業では、文化を通して現代社会について考察する。とくに、1980年代から現在の流行や文化に焦点をあて、それらを紹介・概説しながら、それらを社会とのかかわりから読み解いていく。到達目標は、広く文化的事象（映画や小説、テレビドラマ等の文化的作品群から人々のコミュニケーション様式にいたるまで）に触れ、それらを批判的に読み解く視座を獲得すること、そして、自分たちの社会に対して批判的に思考すること、その上で、社会のさらなる可能性への想像力を養うことである。	
		エスニシティ・ナショナリズム論	○	本授業では、様々な歴史・文化的背景を持つ他者と共生するために、エスニシティとナショナリズムをめぐる基本的な学説および現代における具体的事例を学ぶ。近代化の過程で構築されたネーションやナショナリズムといった現象は、主として文化・歴史的特徴に基づいて区分されるエスニシティとは一致しない。自己と他者のアイデンティティの背景にあるこうした複雑さに対する理解を深めることで共生の態度を養う。	
		家族と現代社会		家族は社会の基本的最小単位集団として、人間生活の基盤を担っている。本授業では、家族について、人文科学・社会科学の視点から家族の本質への理解を深め、今日的課題を探究していく。具体的には、家族の概念と定義、家族の進化、家族の多様性と普遍性、現代の家族、家族と経済、消費者問題、家族の健康、子どもと家族、高齢者と家族、家族と仕事の調和、家族法、これからの家族などについて論じる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	多様性・共生科目	サステナビリティ論		近代資本主義社会の発展は、自然生態系の破壊と表裏一体である。本授業では、環境問題の現状を学び、持続可能な社会を築いていくための想像力を養う。身近な環境問題から地球環境問題、公害問題、自然災害、グローバルな食や農が抱える問題および、それらの対策としての種々の市民活動・地域活動や住民運動・社会運動について学ぶことで、環境問題をグローバルな視野を持ちつつローカルの視点で捉える洞察力と、解決に向けて自ら積極的ににかかわる姿勢を身につけることをめざす。	
		障害学		バリアフリー、ノーマライゼーション、合理的配慮などの障害と社会のあり方に関する言葉が近年広く知られるようになった。本授業では、障害に関する基礎的な知識を学修したうえで、「障害学」の歴史と考え方について学んでいく。学びを通して、これまで「障害をどのように捉えてきたか」自らが振り返る機会をもち、社会との関係性の中で初めて立ち現れる障害という視点に立って今後の社会の在り方を考えていく。	
		グローバリズム論		現代においては、ヒト・モノ・情報・文化の移動や交流は国民国家という枠内には収まらない。本授業ではその現状や問題点を学ぶ。具体的には、例えば、グローバル化、競争の激化、格差の拡大、地球環境への影響といった課題等について理解を深める。また、そうした現象を理解するために有効な理論枠組みを学修し、グローバリズムをめぐる諸課題の解決のための思考を養う。	
		共生社会と人権	○	今日の日本社会は、欧米の近代市民社会を模範とする。一人ひとりを人格の担い手として尊重すること、すなわち「人間の尊厳」は社会の実現目標かつ基本的な価値観として捉えられてきた。特に、「自由・平等」は人間の尊厳の具体的内容をなす基本的な「人権」として把握されてきた。本授業では、かかる人権の本質と内容について理解する。その上で、様々な人権問題につき国内社会と国際社会を比較しつつ法的観点から考察する力を身につける。	
		文化人類学		本授業は、文字だけでは理解することが難しい人間の行動や、人びと自身が違和感をおぼえる社会や文化の事象を、さまざまな角度から検証し、理解を深めていくことを目的とする。「文化」を、その文化の枠組みで考えること、文化の諸要素の相互関係を重視し全体的にとらえる態度を養うこと、文化の違いをとおして自らの立ち位置を検証できることを、すなわち、①エミックな思考能力、②全体論的な思考能力、③文化の相対的な思考能力、以上の3点を身につけることを到達目標とする。	
	キャリア科目	キャリア心理学	○	終身雇用制や新卒一括採用が崩壊しつつある現代において、職業人生をどのように生きていくかは重要な問題である。本授業では、「キャリア」の定義およびキャリアに関する基礎的な考え方について解説したうえで、キャリア心理学の理論と知見を学修する。講義を通じて今後のキャリアを思い描き、各発達段階や危機においてより自分らしい選択ができるようになることを到達目標とする。	
		組織と個人	○	日本の企業組織とホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について実証的知見にもとづいて紹介し、具体的な理解を深めてもらう。組織活動に求められる基本的要件（個人活動との相違）、職場世界における諸現象、および、オフィス・ワーカーたちの働き方とその課題、女性労働をめぐる諸課題、個人と組織・人びとの社会生活と企業活動との関わりについて考察する。	
		職業選択論	○	本授業では、キャリアに関する研究の中でも職業選択や進路決定に関する研究について紹介する。具体的には、職業選択理論や、アイデンティティ、自己効力感などの自己概念と職業選択との関連について、実際に心理尺度を用いたワークを行いながら学修していく。大学生の就職と初期のキャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職活動にも活かしていけるようになることを授業目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	キャリア科目	チームビルディング		近年、若者世代の人間関係をめぐって、きわめて狭い範囲での関係の固定化が進んでいると指摘される。本授業では、「他者」との出会いに心を開き、集団的・組織的活動に参加し、社会的関係を構築するための実践的な知識・スキルを育成する。①他者を受け入れるオープンマインド、②基礎的なコミュニケーション・スキル、③グループに参加する積極性、④チーム運営のスキルの4点を身につけることを目標とする。	
		リーダーシップ論		チームや組織運営にとって、チーム内の各人がリーダーシップを発揮することは不可欠である。本授業では、リーダーシップとは何かを考えるとともに、社会で通用するリーダーシップの育成を行う。組織を動かすためのコミュニケーション力（コーチングスキル、コンサルティングスキル、カウンセリングスキル、プレゼンテーションスキル）や組織を活性化するスキル（論理的思考力、モチベーションマネジメント）について学修し、組織をけん引することのできる力を身につける。	
		モチベーションの心理学		あらゆる行動を始発し継続させるメカニズムのことをモチベーションという。心理学はこれまでモチベーションについて、社会心理学、教育心理学、脳神経心理学などの観点から研究を行い、多様な理論を蓄積してきた。本授業ではモチベーションに関する理論を概観することで、モチベーションについて多面的に理解し、今後の生活や学修において知識を実践的に活かせるようになることを目標とする。	
		広告と消費社会	○	かつてマス・メディアと都市空間を媒体としてきた広告は、今ではサイバースペースを媒体とするものの割合が最多となり、また双方向的な性格をもつものに変容している。それはインターネットやモバイル端末の普及と同時並行的に振興したeコマースの歩みと重なる部分が多い。本授業では、こうした消費社会の変遷を紐解きながら、そのなかで広告がどのように制作され、掲載され、評価されてきたのかを具体的な事例から解説する。そして受講者は自ら批判的に広告を読み解く力を修得する。	
		テーマパーク論		ディズニーランドの登場を皮切りに、「テーマ」によって演出される空間が都市や地域に多く造成されている。これらの空間は、非日常性や没入感を味わう娯楽をそこに訪れる者に提供するが、その一方でその土地の非場所化を促してもいる。本授業ではこれらのテーマパーク（化）について論じ、さらには公園などの広場から動物園、遊園地、博覧会や百貨店、そしてショッピングセンターや高層ビルなどに至る公共空間のあり方と、それらの空間と市民としての私たちとの関係性について検討する。	
		ビューティービジネス		ビューティービジネスは、世相を色濃く反映しながら世界の経済社会の発展と共に変容する。本授業では、年代別のヘアメイク・ファッションの流行とその時代背景を知ること、ビューティーと社会とのつながりやビューティーに関するビジネスの仕組みについて考察していく。講義や実践を通じて、受講生が豊かな創造性や美の感性を身につけること、ビューティービジネスに関する深い理解を得ることを目標とする。	
		経済とビジネス		人びとの意識や行動は経済学的にはどのように説明されるだろうか。われわれの日常生活は社会の経済活動や企業活動からどのような影響を受けているのだろうか。本授業では、根源的な関心に立ち、各自の日常世界を経済学的に理解するために必要な、ミクロ・マクロ経済学のエッセンスを解説する。基礎的な経済学的視座を修得することを目指す。	
		経済とライフデザイン		経済に関する基礎的な知識と、個人のライフデザイン（生活設計）における経済の重要性を学ぶ。具体的なライフイベントやキャリアデザインとマネー・プランニングとの関連性などについて、事例を取り上げながら解説を行う。経済と人生の関わりを知ることによって、自らの人生を主体的に生きる能力だけでなく、すべての人が生きやすい社会の実現にむけた課題解決型思考力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	キャリア科目	プロジェクト演習	○	本授業では、学生が主体的に取り組む課題として、メディア制作の諸過程を経験する。グループで行う情報誌の制作では、企画立案から進行管理、取材撮影、編集デザイン、印刷・製本までを段階的に取り組んでいく。グループ内で話し合いを重ね、考え抜くことで多様な他者と協働できる実践力が身につき、問題を解決できるようになる。また個人では「自己」を表現したプロモーションビデオや絵本のプロジェクト企画も行う。	
	総合科目	人間学		生命倫理の問題、環境問題、人種とテロリズム、社会的格差の問題などに象徴されるように、現代は、人間存在をめぐる哲学的・思想的な省察が求められている時代である。本授業では、哲学史のなかで繰り広げられてきた主要な命題と論点を概説する。それによって、現代社会のさまざまな倫理的課題を各自で考察できるようになることが本授業の目的である。現在起こっている社会的な問題について本質的に議論し、自分の見解を明確に表現できるようになることを到達目標としたい。	
		データ分析の基礎Ⅰ（量的）		本授業では、量的なデータ分析について、「アンケート調査」を主としながら学修していく。量的調査の概要について理解したうえで、仮説を立てて調査票を作り、データを得るまでの一連の工程で必要とされる技法を身につける。また実際に量的データを使用して、統計的な分析方法や結果報告の仕方の基礎について学ぶ。以上を通じて、データを読み解く統計リテラシーをも修得する。	
		データ分析の基礎Ⅱ（質的）		本授業では、質的研究法を代表するインタビュー調査や観察調査、フィールドワークの概要を説明したうえで、各研究法の実施方法およびデータ分析方法について解説する。実際に各自で研究の構想・企画、実査、データ分析、調査レポートの執筆を体験することを通じて、質的研究を遂行するために必要な実践的スキルを習得することを到達目標とする。	
		人間関係学演習Ⅰ		本授業は、社会に出て多くの人とよりよい関係を築いていくための具体的な身体技能、ビジネスの多くの場面で信頼を得るためのマナーについて広く学んでいくことを目的とする。本授業では、秘書検定やサービス接遇検定の「実技」に相当する内容を含んでおり、立ち居振る舞いや敬語をはじめ、接遇や受付などの場面を想定した実技練習を行う。	
		人間関係学演習Ⅱ		本来、言葉を用いて人間関係を構築していく上で、「書いて伝える」ことは重要な手段である。しかし、SNSの発達とともに、短い言葉やイラスト、スタンプだけでやりとりをすることが増え、手紙を書く習慣が減っている。本授業では、「書く」ことに焦点を当て、書くことで自分の思いを豊かに伝える方法を学ぶ。旧暦の季節を大切にした豊かな表現、相手の心に届く手紙、挨拶状や手紙文の基本ルール、ちょっとした表現の工夫、ビジネス場面で必要な文章を用いた交渉術などを教授する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目	現代社会総合講座Ⅰ		（概要）古典的名作や、近年、話題作となった映画を取り上げ、作品中に描かれている現代社会の諸相やさまざまな問題について考察する。各教員の講義（必要に応じてゲストスピーカーを含む）をキーノートに、学生が主体となるパネルディスカッションをとおして議論を掘り下げる。知的な課題に対して俯瞰的に理解し考えることができる能力を磨くことを到達目標とする。 オムニバス方式／全15回 （2 石田 かおり／1回） 身体文化論の視点から作品内容について論じる。 （6 倉住 友恵／1回） 心理学の視点から作品内容について論じる。 （4 榎本 環／1回） 社会学の視点から作品内容について論じる。 （5 大貫恵佳／1回） 社会学の視点から作品内容について論じる。 （7 楠田恵美／1回） メディア論の視点から作品内容について論じる。 （3 福王 守／1回） 法学の視点から作品内容について論じる。 （8 小菅 清／1回） 心理学の視点から作品内容について論じる。 （2 石田 かおり・6 倉住 友恵・4 榎本 環・5 大貫恵佳・7 楠田恵美・3 福王 守・8 小菅 清香／8回）（共同） 作品から読み取れる諸問題について指摘・解説し、学生参加型のパネルディスカッションを行うとともに、学生間の議論をファシリテートする。	オムニバス方式・共同（一部）
		現代社会総合講座Ⅱ		（概要）古典的名作や、近年、話題作となった映画（「現代社会総合講座Ⅰ」とは別作品）を取り上げ、作品中に描かれている現代社会の諸相やさまざまな問題について考察する。各教員の講義（必要に応じてゲストスピーカーを含む）をキーノートに、学生が主体となるパネルディスカッションをとおして議論を掘り下げる。 オムニバス方式／全15回 （2 石田 かおり／1回） 身体文化論の視点から作品内容について論じる。 （6 倉住 友恵／1回） 心理学の視点から作品内容について論じる。 （4 榎本 環／1回） 社会学の視点から作品内容について論じる。 （5 大貫恵佳／1回） 社会学の視点から作品内容について論じる。 （7 楠田恵美／1回） メディア論の視点から作品内容について論じる。 （3 福王 守／1回） 法学の視点から作品内容について論じる。 （8 小菅 清香／1回） 心理学の視点から作品内容について論じる。 （2 石田 かおり・6 倉住 友恵・4 榎本 環・5 大貫恵佳・7 楠田恵美・3 福王 守・8 小菅 清香／8回）（共同） 作品から読み取れる諸問題について指摘・解説し、学生参加型のパネルディスカッションを行うとともに、学生間の議論をファシリテートする。	オムニバス方式・共同（一部）
		身体文化実習Ⅰ		本授業では、しなやかな身体で美しく舞うバレエの基本的な実技演習を通して、美しい姿勢や立ち居振る舞いを学ぶ。実際にバレエを体験することでバレエの特性や身体の使い方を理解するとともに、教養としてバレエの歴史・作品に対する理解を深め、鑑賞する際にも役立つ知識を身につける。課題曲を全員で練習し、最終授業では発表を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目	身体文化実習Ⅱ		本授業では、日本舞踊に関する基礎的な実技演習を行う。具体的には、着物のきつつけとたたみ方の習得し、および日本舞踊の代表的な課題曲2曲を練習し発表する。これらを通して、①着物の文化の美しさと生活の中での機能性の追求、②日本舞踊の演習を通して品格ある立ち居振る舞いの習得、③日本舞踊の表現を通して日本文化の探究と日本女性としてのコミュニケーション力の向上、の3点を目指す。	
	専門ゼミ科目	人間関係ゼミⅠ	○	コミュニケーション・多様性と共生・キャリアとビジネスをめぐる諸相を、本学科の各学問領域を通じてどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、その問題関心に即して、各自が学術的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得することを目標とする。受講者による報告とそれにもとづくディスカッションを基本形式にして進める。次の3点を具体的目標とする。①ゼミ活動に必要なICTツールの基本的な操作・作法に慣れる、②学術的水準でプレゼンがこなせる、③文献の読み方をマスターする。	
		人間関係ゼミⅡ	○	本学科の各学問領域における学術的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開する。各自の研究活動に必要な基礎的スキルを着実に修得することを目標とする。次の3点を具体的目標とする。①文献の読解力を深める、②ディスカッションのスキルを高める、③「問い」を立てるスキルを身につける。	
		人間関係ゼミⅢ	○	本格的な学術研究を目指して、自らの問題関心を掘り下げること、「問い」を立てること、情報を集めその「問い」にじっくりと考察をめぐらすこと、などの知的営みに取り組む。また、自分の着想を相手に明確に伝え、相手の主張を精確に理解し、それに的確にコメントするためのコミュニケーション・スキルを磨くことも学修課題とする。次の3点を具体的目標とする。①「問い」を立てるスキルを高める、②文献情報を収集するスキルを高める、③文献の読解力を深化させる。	
		人間関係ゼミⅣ	○	各自の研究知見と論点をめぐって集中的に議論し合う作業に取り組み、それらの研究成果を論文としてまとめるトレーニング活動を展開する。互いのコメントから学び合い、また、自分の論考を客観的に読み返し、粘り強く精練を積み重ねる体験と向き合うことを指導する。学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルを高めることを目標とする。	
		卒業論文		論文執筆に必要な問題発想と構想力、情報収集スキル、論理的分析力、文章表現スキルを指導する。大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる作業を支援する。	
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館概論		現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本授業は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論		本授業は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館展示論		本授業は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した授業をする。	
		博物館資料保存論		本授業は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理・・・）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論		本授業は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実践について授業を行う。	
		博物館教育論		本授業は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実践について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら授業をする。	
		博物館情報・メディア論		本授業は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	
		博物館実習A（見学実習）		博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	
		博物館実習B（実務実習）		博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	
		博物館実習C（館園実習）		博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(共創文化学部 心理学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	建学の精神を学ぶ科目	建学の精神と仏教Ⅰ	○	本授業では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」とその基礎となる仏教の開祖・釈尊の生涯と教え、さまざまな日本の仏教文化について概説する。日本文化の形成に大きな影響を与えた仏教が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、建学の精神と仏教Ⅰの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		建学の精神と仏教Ⅱ	○	本授業は、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基礎となる曹洞宗の開祖・道元禅師の生涯と教え、さまざまな日本の禅文化について概説する。日本文化に大きな影響を与えた禅の教えが今を生きる私たちの日常生活にどのように関わり合ってくるのか、建学の精神と仏教Ⅱの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
	人間を学ぶ科目	哲学		生命倫理の問題、環境問題、人種とテロリズム、社会的格差の問題などに象徴されるように、現代は、人間存在をめぐる哲学的・思想的な省察が求められている時代である。本授業では哲学史のなかで繰り広げられてきた主要な命題と論点を概説する。それによって、現代社会のさまざまな倫理的課題を各自で考察できるようになることが本授業の目的である。現在起こっている社会的な問題について本質的に議論し、自分の見解を明確に表現できるようになることを到達目標としたい。	
		人間と思想		人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。また、倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことを目指す。	
		人間と文化		本授業では、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。また、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。	
		生命の科学		「そもそも私とはなにか？」から問を発し、「私」が生まれてきた道筋である生命の進化を学び、「私」を構成している分子や細胞、DNAについて触れ、生物のからだのつくりや仕組みといった生命科学の基礎知識について学ぶ。さらに生命科学分野の進歩とりわけバイオテクノロジーの医療応用に伴って多様な問題が生じているが、それらの問題解決への道筋、そして我々の未来について考えていく。本授業の内容には女性という視点を取り入れ分かり易く講義する。授業の進め方としては、パワポによる講義だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、講義内容を具体的に理解できるように工夫していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人間を学ぶ科目	倫理学		本授業では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
		女性と人権		本授業では、人が社会生活を営む上で最も基本的な人と人との関係を規定する規範としての法学を通して、市民と法との関わり方、という観点から、日本の法のあり方について検討する。日常の社会生活での具体的問題、特に「女性の権利」に関わる問題を素材に、法的なものの考え方（リーガルマインド）を説明し、現代の法がどのようなことを定めているのか、またそれはどのように形成されてきたのか、さらには、どのように評価するべきかを考察する。	
		心理学		本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。心理学では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第2回）、情報はどのように整理されるのか（第3回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第4回、5回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第6回、9-10回）及び発達障害（第7回、8回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第11-13回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第14回では心理療法の1つである「認知行動療法」について学ぶ。	
		生涯学習論Ⅰ		本授業は、生涯学習の意義・目的や定義を学び、生涯学習社会の実現について討論することから始める。また、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学び、生涯学習の多様な在り方についての理解を深める。そして、国際社会が目指す人間像や生涯「学修」の特性を踏まえ、自身の長期的な学修課題について考察を深めていく。そのため、講義毎に「学びのドキュメンテーション」を作成することを求める。自身の学修プロセスの記録や振り返りを通じ、学修課題の明確化に役立ててほしい。	
		生涯学習論Ⅱ		本授業は、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、自身の学修課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発・宣伝する活動を行う（自身の学修課題に基づく課題解決型学習とプレゼンテーションを行う）。特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした授業では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学ぶだけではなく、学習成果の評価や振り返る方法についても学ぶ。	
		社会福祉概論Ⅰ		本授業は、社会福祉論という領域の基本を学習する。まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
		社会福祉概論Ⅱ		本授業は、社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本の文化と歴史		本授業は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。学生各自が「歴史」をより深く学ぶことで培った視角や問題認識をもとに、現代日本社会の諸問題も考えることができるようになる。	
		世界の文化と歴史		本授業は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本授業は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
		民俗学		本授業は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		考古学		本授業は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学		本授業は、産業と人びとの暮らしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業と暮らしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		戦争と平和の歴史Ⅰ		戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、本授業では19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
		戦争と平和の歴史Ⅱ		戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、本授業では第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	文化と歴史を学ぶ科目	西洋文化史		本授業では、ルネサンス以降の西洋社会における文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、その発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から20世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究する。	
		日本美術史		本授業は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		比較文化		本授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
		観光地理（日本）		本授業では、観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高めることを目的とする。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、授業で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
		観光地理（世界）		本授業は、グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣・魅力などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付けることを目的とする。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、授業の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
	社会と自然を学ぶ科目	日本の政治		本授業では、日本の政治を戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当て、その軌跡から日本政治の特徴を探ることを目標とする。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家や官僚任せの人生を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いた講義とする。	
		世界の政治		本授業では、国際社会における諸問題や日本のポジションを探ることを目標とする。国際社会で日本は”異質な国家”とみなされるケースが多々ある。なぜ日本は世界から”異質”に思われるのか？日本が”異質な国家”と思われる構造を国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の特徴から検証する。また、日本を取り巻く国際社会のアップデートな問題も取り上げ、教養を深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会と自然を学ぶ科目	日本の経済		本授業では、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
		世界の経済		現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を見無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本授業は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。なお、世界経済の現状について、経済学の基礎的手法や統計データなどを用いることにより学修し、最終的に、貿易政策や他国との関係、時事問題を理解する力を養う。	
		政治と市民参加		現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。本授業は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
		法学		私たちの生活は、法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限する。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな二つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務である。本授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをいねいに伝えていく。身近な裁判例なども紹介し、新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
		法と社会		法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段である。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがある。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論である。本授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝え、未解決な社会問題を考える際に、ひとつの指標を提供したい。個々の法のあり方を具体的に紹介した上で、現代社会の抱える高齢社会の問題についても考える。	
		日本国憲法Ⅰ		日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
		日本国憲法Ⅱ		現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。本授業では、こうした国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐる議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会と自然を学ぶ科目	社会学Ⅰ		「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている21世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。本授業は、この社会学の基本的な考え方を、「再帰性」をキーワードに、伝統や宗教などの具体的なトピックを上げながら解説する。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前のこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
		社会学Ⅱ		本授業では、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、身体、医療をめぐる現代社会の問題といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、身体、医療の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
		数学の世界		数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本授業は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、数と式（整式・因数分解、一次方程式・連立方程式）、関数（一次関数、二次関数、二次方程式）、図形の性質（合同・相似・三平方の定理、円の性質）、図形と計量（三角比、三角関数、三角形への応用）、場合の数（順列・組合せ）、確率、整数の性質（約数と倍数）等について学ぶ。	
		物理の世界		物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。本授業では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。具体的には、物理学で扱う単位と数学的知識、物体の運動、力学、仕事とエネルギー、熱とエネルギー、音とは何か、電気とは何か、身の回りの物理学等について学ぶ。	
		生物と生命		生物学、生態学、人類学、環境科学をディシプリンとして、ヒトを中心とした生物と環境との関りを学ぶとともに、人間が営む脱生物学的活動が生態系サービスにどのような影響を与え、その結果引き起こされる環境問題についても学ぶ。さらに、人類存続が可能な関係を再構築するために「科学リテラシー」を身に着けることの必要性を理解する。授業の進め方としては、パワポによる授業だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、授業内容を具体的に理解できるように工夫していく。	
		地球と宇宙		古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本授業は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	
		色彩と科学		本授業は、視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
		統計の基礎		本授業は、統計学のなかでも、より基礎的な「記述統計学」の習得をテーマとする。記述統計学の狙いは、与えられたデータを、特徴がわかりやすくなるようにまとめることである。本授業では、平均値のような単純なまとめ方からスタートし、より高度なまとめ方までを段階的に理解することを目標とする。具体的には、1変数の統計的分析、2変数の統計的分析、量的変数と質的変数の違い、4つの尺度の区別、3変数の統計的分析等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	実習科目	地域共創活動実習		自分にもできることを通じて、様々な人々と関わり、社会における新しい価値や視点を協働して見出すことを目標とする。本科目で言う共創活動とは、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などにおけるボランティアを通して様々な立場の人と交流することを意味する。授業の主な進め方としては、①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出等が義務づけられる。	
		国際協力実習		グローバル化が進展し、世界が緊密になりつつある昨今、国際協力は幅広い意味を持ち、その手法も多様化している。国際協力実習では、特に途上国での開発支援を念頭に、協力の現場である現地を訪ね、社会・経済状況を視察し、人々と交流を行いながら、自ら国際協力を実践し、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。訪問国についての情報収集、実習の準備と実習を中心とし、ディスカッションやプレゼンテーションによりコミュニケーション力を高め、国際協力への理解を深める。	
		海外英語研修Ⅰ		本授業は、研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
		海外英語研修Ⅱ		本授業は、「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
		English Summer Seminar		(英文) This course will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will feel more confident in her ability to communicate in English, in addition, make new friendships with all participants. (和訳) 英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。2名の英語教員が協働でグループをマネジメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
	就業力育成科目	キャリアデザインⅠ	○	本授業は、自分らしく人生を生きるためのキャリア形成能力と社会に旅立つ準備としての就業力の育成を目指す。複数のワークを通して将来について考える機会をもち、目標を思い描くことによって今後の大学生活を有意義に過ごせるよう働きかける。そのうえで将来目標と大学全体や専門領域での学びを結びつけることで、学修への動機づけを高めることを目標とする。また、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動できるよう、基礎的な知識とスキルを身に付け、ペアワークやグループディスカッション、ライティングなどのアクティブラーニングを中心に据えることで、コミュニケーション力と文章力をも高めてる。以上の学修を通じて、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「キャリアプランニング能力」および「人間関係形成能力」を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	就業力育成科目	キャリアデザインⅡ	○	キャリアデザインⅠの授業を進展させ、本講義では将来目標をさらに具体的に思い描き、それを実現できるよう就職活動に関する実践的学修を中心に進める。具体的には、①自己の興味関心や強みを理解するワークを実施し目標を明確化すること、②業種や職種について調べることで進路選択の幅を拡げること、③履歴書の書き方やインターンシップ対策など就職活動時に必要とされる知識やスキルを獲得することにより就職活動での主体的な動き方を学ぶことの3点によって、自信をもって今後の進路選択に臨めるように準備することを目標とする。ペアワークやグループディスカッション、ライティングなどのアクティブラーニングを実施することで、コミュニケーション力と文章力をも高める。以上の学修を通じて、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「自己理解・自己管理能力」および「人間関係形成能力」を育成する。	
		キャリアデザインⅢ		キャリアデザインⅠ・Ⅱで修得した知識やスキルを活用しながら、将来を切り開き、目標を実現するための更なる就業力向上を目指す。就職活動スケジュールについて改めて学習し、エントリーする企業を決めるための企業研究を行い、自分の強みを活かした自己PRについて考え、企業を想定したプレゼンテーションを行う。また、テーマを設定したグループディスカッションを行うことで他者の考えを理解し受け入れながら協同する力、様々な課題を発見・分析する力、考えた内容を相手に伝える発信力を育成する。以上の学修を通じて、本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「人間関係形成能力」および「課題対応能力」を育成する。	
		キャリアデザインⅣ		キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲで修得した知識やスキルを活用しながら、描いた将来や目標を実現するための更なる就業力向上と総合的なスキルの獲得を目指す。具体的には、インターンシップへのエントリーを模擬的にを行い、履歴書の作成を実際に行うこと等を通して実践的に学び、自己の特長について改めて振り返り、これまでの大学生活でどのような経験をしたのか、そこからの学びは何かを考え他者と共有することで、自己のアピールポイントを発見する。また、受講生同士での質疑応答やグループディスカッションを実施することで他者と協同する力、課題発見力、相手に伝わる発信力をさらに向上させる。以上の学修を通じて、本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成能力」「課題対応能力」を育成する。	
		ビジネス・キャリア演習		将来の予測が困難で不確実性の高くなった昨今においては、ビジネスシーンにおいても個人の人生においても未知の課題を解決しなければならない状況が増加している。本授業では、企業や社会における問題を想定し、グループで課題解決に向けてアイデアを捻出し、実行する手段について考え、実際に解決に向けて協同するという演習型で実施する。様々な課題に取り組むことを通じて、問題解決能力の向上とともにグループでのコミュニケーション力やチームワークを醸成する。本授業ではキャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」のうち特に「課題対応能力」および「人間関係形成能力」を実践的に育成する。	
	健康体育科目	女性とウェルビーイングⅠ		本授業では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。女性とウェルビーイングⅠでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。本授業を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に付け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
		女性とウェルビーイングⅡ		本授業では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた授業とする。女性とウェルビーイングⅡでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
		スポーツⅠ		健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	健康体育科目	スポーツⅡ		自分の身体とは一生つきあって行かねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	○	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目標とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
		言語表現演習Ⅱ	○	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	
	外国語育成科目	英語（会話表現）Ⅰ	○	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅱ	○	英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅲ		英語（会話表現）Ⅰ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅳ		英語（会話表現）Ⅲを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	英語（読解）Ⅰ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅱ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅲ		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
		英語（読解）Ⅳ		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	
		英会話Ⅰ		（英文） This class focuses primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real-world topics are provided and students are given language structures that will help them in a variety of real-life situations. Through a combination of pair and group work, students are given a variety of activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳） この授業では、リーディングとライティング指導も行いつつ、主にスピーキングとリスニングの上達に重点を置く。自然で実際に使われている会話形式を取り上げ、発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	英会話Ⅱ		(英文) This class builds on English Conversation I and continues to strengthen students' communication skills in English. Special attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversation topics. Real-world media will be used as a springboard for meaningful interaction. Interactive structures related to communication in modern English will be provided and students will be given the opportunity to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. (和訳) 「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語でのコミュニケーション能力を強化することを目指す。特に、口語英語について積極的に知識を身につけ、一般的で最新の様々な会話トピックについて対話する能力を養う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
		英会話Ⅲ		(英文) This class builds on the content of English Conversation I and II and provides students with training in a deeper level of natural English communication. Special emphasis will be placed on sustaining conversations over longer periods of time. To achieve this goal, students will be exposed to various methods of turn-taking and conversational strategies related to forming follow-up questions and pausing in conversation. Students will work on achieving natural English rhythm in their speech with the goal of improving their overall fluency. (和訳) 「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、より深いレベルの自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」(会話を途切らすという会話の技法)を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	
		英会話Ⅳ		(英文) This final course in English Conversation will synthesize the practices learned so far with the goal of making students confident and natural in their English communication style. Students will work on maintaining fluent, extended conversations about relevant current events and topics. The differences between casual and more formal conversations will be studied. Pragmatics in relation to American and British culture will also be examined, with particular emphasis on hedging and expressing disagreement. Students will become sensitive to cultural differences among native English speakers and how to interact appropriately in a variety of international situations. (和訳) 「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
		フランス語Ⅰ		本授業では、主にフランス語未習者を対象に、フランス語の読み・書き・会話の基礎力を養成することをテーマとする。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	フランス語Ⅱ		フランス語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
		フランス語Ⅲ		フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
		フランス語Ⅳ		フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	
		ドイツ語Ⅰ		主にドイツ語未習者を対象に、ドイツ語文法の基礎内容を学習し、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。具体的な文法事項としては、アルファベットの読み方から発音の確認をはじめ、簡単な挨拶の表現を経て、ドイツ語学習の基本である人称代名詞、動詞の現在形の活用、ドイツ語の語順、冠詞のつかいかたとその活用の習得までを目指す。また、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより高めることを重要なことと考えている。	
		ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。	
		ドイツ語Ⅲ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱの受講を経た学生を対象に更なる文法学習を進め、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」の授業における既習内容の復習から始め、さらに発展的な文法内容を確認し、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより一層高めることを目標とする。	
		ドイツ語Ⅳ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。時制や関係代名詞についての全体的な確認と受動態・仮定法などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。ドイツ語で書かれた文章に多く触れることで、初級ドイツ語文法の総括的な習得を目指す。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養 科目	外国語 育成 科目	韓国語Ⅰ		本授業では、主に韓国語未習者を対象に、韓国語文法の基礎内容を学習し、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する初歩的な理解を身につけることを目指す。具体的には、文法理解に加え、読み・書き・会話の基礎力を育成することが目標となり、表記と発音の関係を学び、特徴的な発音法を理解し、韓国語学習の基本の習得を目指す。日本と韓国の文化比較や社会事情などに関したテーマを扱い、学生の関心をより高めることを重視していく。	
		韓国語Ⅱ		韓国語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進め、既習の語彙・文法を復習しながら語彙力・表現力を高める。会話表現については、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、基礎的な「受信・発信」ができる力を身につける。自分のことについて話すことができ、かつ相手についての簡単な質問ができることをめざし、韓国語による会話能力の向上を図る。	
		韓国語Ⅲ		韓国語Ⅰ・Ⅱの受講を経た学生を対象にさらなる学習を進め、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の授業における既習内容の復習からはじめ、さらに発展的な文法内容を確認し、易しい文章の読解、作文などを盛り込み、韓国語の運用能力をバランスよく鍛える。会話表現については、語彙力、表現力をさらに高め、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、簡単な質問を正確に聞き取れるようトレーニングを行っていく。	
		韓国語Ⅳ		韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習内容を振り返りつつ、基礎文法についてさらに理解を深める。文法事項、単語などを繰り返し確認することで知識の定着を目指し、韓国語で書かれた文章に多く触れることで初級韓国語文法の総括的な習得を目指す。会話表現については、身近な話題についてある程度会話を続けられる力をつけるために、テキストの例文・本文の暗誦や教室学習を通じ、文字に頼らずに会話ができるヒアリング力と発話力を高め、総合的な会話力を身に付ける。	
		中国語Ⅰ		本授業では、主に中国語未習者を対象に、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諸否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
		中国語Ⅱ		中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身につけた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
		中国語Ⅲ		中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	外国語育成科目	中国語Ⅳ		中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
	情報力育成科目	ICTリテラシーの基礎	○	ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化が著しい。コンピュータ中心だった情報処理からスマートフォンやタブレット端末が主流の情報共有に変化し、情報そのものも複雑化してきた。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業など私たちの生活を一変させるものであった。また、小中高においても情報活用能力の育成とICT活用が新学習指導要領のもと全面实施された。こうした中、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行う。	
		ICTリテラシーの応用	○	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目標とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。総合的にICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって授業を行い、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に、数値処理や統計処理など基礎ゼミや専門ゼミ、授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて実務的な演習を行う。	
	特設科目 留学生	日本語Ⅰ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。聞きやすくなりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。	
		日本語Ⅱ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。	
		日本語Ⅲ	○	総合的な日本語力の向上を目指す。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。口頭要約表現や意見表明および論理的に相手を説得する方法を身につける。また、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。この授業では発表とディスカッションを行う。	
		日本語Ⅳ	○	パネルディスカッション、グラフを使った意見表明のスピーチ、ディベート（1対1）を通して、聴解力と口頭表現能力をさらに伸ばすことを目標とする。資料の読解、原稿やレポートの作成によって、総合的に日本語力が向上することを目指す。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。この授業ではディスカッションを行う。	
		日本事情Ⅰ	○	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目指す。また、日本社会でも特に教育や日常生活などさまざまな場面でみられる日本文化について、これまで得てきた知識を確認しながら、さらにそれを深めていくことを目的とする。具体的には、日本の教育制度、若者の就業意識・日本人の労働意識、年中行事、訪問や食事のマナー、季節のあいさつ、伝統芸能・祭りなど、日本の教育と文化について理解を深める。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養 科目	特設 科目 留学生	日本事情Ⅱ	○	本授業は、日本で用いられている文字、あるいはそれを使って書かれた小説をはじめとする文学作品に目を向け、折々の季節に応じた風習、突発的な出来事に対し日本ではどのようにしているか、などについても触れ、日本文化に対する知識を深めることを目標とする。具体的には、手紙文（形式・書き方）、日本の作家や小説、日本の詩人や詩、短歌、俳句、川柳、祝儀、不祝儀、季節のあいさつ（年賀状）、クール・ジャパン、昔話、折り紙など、日本の教育と文化について理解を深める。	
		日本事情Ⅲ	○	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目標とする。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどのタスクを通じて、自分の意見を発信できる能力を養う。具体的には、日本ってどんな国?、都市の暮らし・地方の暮らし、日本の旅を楽しもう、いただきます!、季節を楽しむ年中行事、知っておきたい日本の歴史、伝統文化体験等について学ぶ。また、母国と日本、日本の都市と地方、日本の昔と現代、など多様な視点から比較し、母国の特徴について新しく気づくことで、より具体的な意見を述べる力を身につける。	
		日本事情Ⅳ	○	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目標とする。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどのタスクを通じて、自分の意見を発信できる能力を養う。具体的には、現代文化とポップカルチャー、スポーツの楽しみ方、前進を続ける科学技術、教育と子供たち、産業構造と経済、政治と憲法、多文化共生社会を目指して等について学ぶ。また、母国と日本、日本の都市と地方、日本の昔と現代、など多様な視点から比較し、母国の特徴について新しく気づくことで、より具体的な意見を述べる力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	基礎ゼミⅠ	○	大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法・技術・姿勢を養う。個々のテーマをめぐって発表したり議論したりすることを通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養う。自己について理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、自分で調べ、整理し、他者に的確に伝える技術の習熟も目標とする。	
		基礎ゼミⅡ	○	基礎ゼミⅠに引き続き、少人数の対話型議論を通して、大学での主体的・協働的な学びにかかわる方法・技術・姿勢を培うことを目指す。加えて、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的知識の習得や様々な先達の歩みに関する学びを通して、自身のキャリアについての自律的な設計も促す。	
		心理学概論Ⅰ	○	心理学は、観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別されるが、本授業では前者を柱とした授業を行う。心理学の成立過程という歴史的視点と、ここを理解するための感覚・知覚、学習、記憶、認知、情動といった基礎的な知識を教授する。それらを通じて、心理学を学ぶ意義を理解させる。	
		心理学概論Ⅱ	○	心理学概論Ⅰで学んだ基礎的な知識を踏まえた上で、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり、隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及する。	
		心理学プレゼミ	○	心理学のさまざまな領域に関わる専門的なテーマについて理解を深め、2年次以降に配当されるより専門性の高い授業および3年次以降の専門ゼミを受講する準備段階として必要な知識習得及び情報収集・発信の技術を養う。また、心理学の学びと社会との繋がりについての具体的なイメージを高め、進路設計に役立てるために、様々な心理学関連領域で勤務する方々をゲストスピーカーとして招き、心理学の実践的な活用場について理解を深める。	
		心理学実験Ⅰ	○	実証的科学である心理学の実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術と情報分析方法を習得する。実習内容は、実験心理学として総称される感覚・知覚、学習、記憶、思考領域の基礎的な実験であり、複数の実験課題を心理学実験室において行う。そして、問題（仮説）の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を学ぶ。	
		心理学実験Ⅱ	○	心理学実験Ⅰに引き続き、実証的科学である心理学の実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術と情報分析方法を習得する。実習内容は、実験心理学として総称される学習、記憶、思考、社会、性格領域の基礎的な実験であり、複数の実験課題を心理学実験室において行う。そして、問題（仮説）の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を学ぶ。	
		心理学研究法Ⅰ	○	心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を解説する。本授業では、実験法、調査法、さらに近年日常生活の心理研究が注目される中多く用いられている観察法について、その方法論と手続きを解説する。次にそれぞれの手法が使われた具体的研究例を検討することにより、手法の利点や問題点を考察する。なお、研究によって得られた心理学データ（資料）の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きも論究する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	心理学研究法Ⅱ	○	心理学研究の重要なデータ分析方法のひとつである、質的研究法の入門授業である。質的研究法は、調査の際だけではなく、カウンセリングや心理療法などの実践活動の過程を分析するためにも必要である。本授業では、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、テキスト解釈や現象学的アプローチ、エスノグラフィ、会話分析などの研究法の概説と研究例の紹介を通じて、質的研究法の基礎を理解する。また、実際に質的分析法を用いた課題の実施を通して、方法の習得を目指す。	
		心理学統計法		統計法は心理学のみならず、現代社会における情報分析において欠かせない手法となっている。本授業では、心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。主として、記述統計学の考え方を理解することを目指す。またパソコン実習を通じて、データ分析のスキルを身につけるとともに、表計算アプリ（EXCEL・Googleスプレッドシート）を用いてグラフの作成やデータの分析ができるようになることも目指す。	
		臨床心理学概論		臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本授業では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不適応や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。	
		心理データ解析法		統計法および質問紙調査は心理学のみならず、現代社会における情報分析において欠かせない手法となっている。本授業では、心理学のデータ解析を学ぶ上で必要な推測統計学（特に統計的仮説検定および因子分析の考え方・使い方）や、質問紙調査の基本を身に着けることを目指す。また、統計的分析において欠かせない表計算及び統計分析アプリケーションの使い方も理解する。	
		心理学英語講読		英語をとおして心理学を理解する能力を高めることをこと目的とする。このため次の心理学において基礎的なトピックス（英文）を教材として講読演習を行う。「1. Introduction to background of psychology」「2. Nature vs. Nurture」「3. Conditioning」「4. The Developing Child」「5. Language Development」「6. Health、Mind and Behavior」「7. Intellectual and Social Development」「8. Personality、Adjustment and Stress」「9. Defense Mechanisms」「10. Adolescence」「11. Mental Disorders」「12. Psychotherapies」「13. The Life Cycle」「14. Testing and Measurements」。	
	基礎心理科目	知覚・認知心理学		人間の認知機能の解明を目指す認知心理学について、その歴史的背景から成立、さらに現代までの発展を概観し、その方法論的特徴を講義する。次に、人間の主要な認知機能である視覚、記憶、学習、問題解決、思考等をテーマとした代表的研究について論究し、認知心理学的アプローチにより新しく解明された事実と、事実から構成された人間の認知機能に関するモデルについて考察する。また、実社会への応用例として、教育場面、産業場面での実例を示し、認知心理学的知見がどのように実社会に具体化され、生かされているかを検討し、今後の応用可能性について考察する。	
		学習・言語心理学		人間と動物と分ける最も大きな違いは、その卓越した思考・言語能力に求められる。人は、考えることで、適応的な行動を選び、ことばを使って複雑な情報を伝達することができる。人はどのようにして考え、ことばを操ることができるのか、またそうした能力は、どのような性質を持ち、どのように発達するのか、といった言語能力のさまざまな側面について、認知心理学、発達心理学、動物心理学、神経心理学などの知見を交えながら、思考・言語の性質とその基盤についての理解を深めることを目的とする。	
		感情・人格心理学		私たちは誰もが『感情』と『人格』を持って生きている。それらのありようは人によって異なり、”その人らしさ”を構成している。つまり、『感情』と『人格』について学ぶことは、自分自身への理解の深化につながりうるだろう。本授業では、『感情』および『人格』に関する心理学的理論について基礎的なものを学び、受講生が学んだ内容をふまえながら、”自分らしさ”についてより深く考えられるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基礎心理科目	神経・生理心理学		脳の損傷によって生じる高次脳機能障害の多様な様相を学びながら、心をつくりだしている脳の構造と機能についての理解を深めると共に、近年、著しい進歩を遂げている脳科学の知見を取り上げながら、神経心理学の現状と課題について議論することを目的とする。なお、各障害の特性については、可能な範囲で疑似体験等を行いながら、体験的に理解できるようにする。	
		家族心理学（社会・集団・家族心理学Ⅰ）	○	昨今、家族を巡っては、非婚晩婚化、少子高齢化、核家族化等が指摘されるが、ほかにも児童虐待やDV、離婚と父母の不和に伴う子どもの問題等、家族や家庭が抱える問題がある。また、非行の背景に、家庭の機能不全や家族間の葛藤が生じていることもある。それぞれに存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとっての意味を考察していく。特に個人の発達課題とともに、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした上で、家族支援の理論と技法に関する授業を行う。	
		社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ⅱ）		本授業では、「社会・集団」の心理をテーマに、心理学のなかでも「個人」から「集団」の心理まできわめて広範囲な心理的事象を研究対象とする社会心理学の基礎を概観する。個人の心理とは「自己」に関連する心理、集団の心理とは、家庭における「家族」、学校・職場といった「組織」、災害時などの「集合行動」、国によって異なる「文化」の心理などである。このような個人と集団の心理について、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響を取り上げる。	
		発達心理学Ⅰ		本授業では、ピアジェやコールバーグの発達理論を参考にしつつ発達心理学的視点から、誕生から児童期に至る子供の心理過程について解説する。また授業のなかでは、発達の連続性、すなわち「成人の精神構造は子供のそれを基礎として発展的に構築される」ことを理解し、大人の内なる幼子との対話は、自分自身の精神をより深く理解することにつながることを学んでいく。	
		発達心理学Ⅱ（高齢者心理学）		本授業では、青年期から老人期に焦点を当て、エリクソンの発達段階論を中心に解説をする。青年期から成人期にかけては「若者の今日的な状況」について理解を深める。とりわけ「青年期の延長」いわゆる「モラトリアム」の長期化や「一人前」意識の喪失といった問題が、若年層のみならず中高年齢層の疎外感とも深くかかわっていることを考察する。それ以降のいわゆる中年期から老人期にかけては、超高齢化社会を迎える現代社会の一員として、人間が精神的に充足した豊かな老後を過ごし人生を終えるとはどのようなことかを心理学的な観点から見つめ直していく。	
		障害者・障害児心理学		身体障害、知的障害及び精神障害などの概要を理解し、障害者・障害児の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。また、福祉現場あるいは身近な事案などを用いた課題等に取り組むことで理解を深める。本授業を通して、適切な支援が実施できる、あるいは必要な支援につなげることができるよう、障害の特性などの理解や、障害者・障害児を取り巻く心理社会的課題・社会資源の理解を目指す。	
		比較行動学		人間の行動を理解するために、動物の行動と比較しながら検討する。動物の進化や生態について学ぶことにより、動物の種としての人間が進化の過程における位置づけやその特殊性についての理解を深める。とりわけ言語の問題、自己意識の問題など、人間を他の動物から際立たせている側面について学ぶ。また、攻撃性についても動物との比較において学び、人間の攻撃性や道徳性などについて理解を深める。	
		発達臨床		乳幼児期から児童期にかけて子どもが示すさまざまな問題を発達の視点からとらえる。乳幼児における授乳・摂食障害や睡眠障害、排泄障害などの生活習慣上の諸問題について、その実態や生起メカニズムについて学ぶ。とりわけ母子のコミュニケーションの様相について焦点をあてて、良好な母子関係がどのようなものなのかということについて理解を深める。また、過度のしつけや虐待などの母子関係の問題についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基礎心理科目	対人関係論		対人関係の研究の日常生活への応用、特に大学生など「若者の対人関係」について社会心理学的研究の成果と知見を学ぶ。本授業では、若者である大学生にとって身近な恋愛、友人関係、特に気になる就職活動、ダイエット、占い、ネットから犯罪・非行まで、豊富なトピックを題材に社会心理学の奥深さを知る。心理メカニズムを明らかにするだけでなく、うまくいく恋愛、友人関係、内定を獲得する就職活動への対処法も取り上げ、単なる専門知識の獲得にとどまらない対人関係や自分自身へのライフデザイン実現への応用も視野に入れている。	
	実践心理学A科目	心理的アセスメントⅠ		心理検査の中でも質問紙法を中心に取り上げる。私たちは様々な質問紙法によって自分自身の性格、考え方、行動傾向などを理解することができる。質問紙によって把握された結果によって、集団の中での自分の位置を把握することができる。繰り返し質問紙に回答することで、過去の自分と比較することもできる。本授業では、実際に質問紙に回答する機会も設ける。信頼性や妥当性といった用語だけでなく、測定している概念についても説明を行うことで、質問紙に答えることによって得た結果をより深く理解できるようにする。	
		心理的アセスメントⅡ		臨床心理学におけるアセスメントとは人の心理を観察、面接、そして心理検査などの方法を用いて理解し、臨床心理支援に活かすものである。本授業では心理検査の中からは特に投影法を取り上げる。基礎的な理論、留意点、検査の特徴や意義、実施方法などを学習し、その上で授業内で実習を行い検査を実際に体験する。また、臨床現場での検査の活用例を学習するため事例の紹介を行う。	
		心理学的支援法Ⅰ		心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学ぶ。本授業では、心理学的支援やケースワークの歴史、定義、原則、過程や良好なコミュニケーション方法について押さえた上で、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを学ぶ。それぞれに短い事例を取り上げ、それに回答することを通して、アプローチの理解を深めていく。援助的コミュニケーションについても触れる。援助・支援に関する知識と技術を習得し、カウンセリングや援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	
		心理学的支援法Ⅱ		心理学的支援法Ⅰで学んだエコロジカルアプローチ、行動アプローチ、ナラティブアプローチの理解を深めるため、長い事例を用いて、グループワークによるディスカッションや発表により参加型の授業を図り、心理学的支援を実践的に学んでいく。職業倫理やコミュニティ心理学と心の健康教育についても触れる。心理学的支援法Ⅰで学んだアプローチの理解をさらに深め、心理学的支援について実践的・主体的に考えられるようになることを目指す。	
		心理療法論Ⅰ		認知行動療法の理論と臨床的援助の方法の基礎を学ぶことを目標とする。まず、認知行動理論の特色、認知行動理論が成立した歴史的背景や他の理論との違いについて学ぶ。次に、認知行動モデルについて学んだ上で、事例検討を通して、認知の変容が行動の変容を生じさせるという認知行動療法の実際を理解する。また、日誌法や認知再構成法などの、認知行動療法のさまざまな技法を自ら課題として実施してみることを通して、体験的にその有効性や限界について考察し、理解を深める。	
		心理療法論Ⅱ		精神分析の創始者S.フロイトの業績について学び、無意識についての理解を深める。人間の心を自我、エス、超自我という構造から成ると考え、心理的な問題をそれらの葛藤からとらえるという精神分析の基本的な理論を学ぶ。そして治療としての精神分析の設定とその目的について考察し、具体的な症例を通してその意義を理解できるようにする。とりわけ転移という精神分析的な治療のもっとも特徴的な現象やその取り扱いについて理解を深める。	
		心理学研究実践実習		人が安心して自分のことを話すために援助者になにができるだろうか。援助者は様々なことに気をつけなければならない。例えば、相手が安心して話せるように、援助者は自分の緊張や不安に気づき、整えることが必要である。更に、相手が分かってもらえていると感じられるように、言葉の内容だけでなく、話し方や姿勢など非言語的なメッセージにも気を配ることが大切である。相手のためにできることはたくさんある。本授業の目的は、自分の心身のクセを知り、相手の思いを聴く方法を実践し、人を支える奥深さを体験することである。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	実践心理学B科目	健康・医療心理学		本授業では、次の４点について概説する。（１）ストレスと心身の疾病との関係、（２）医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、（３）保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について、具体例を通しての理解、（４）災害時等に必要な心理に関する支援。	
		福祉心理学		福祉現場や身近な実際の事案などを用いて、福祉について自分のこととして具体的に考えられるようになり、また、人を支援する仕事に就いた時に適切な支援ができる基礎となる知識を身に着けることを目的として、社会で福祉が必要とされていることの意味、虐待などの事象を生む社会背景や人々の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて学ぶ。また、グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることを目指す。	
		教育・学校心理学		本授業では、心理学の知見を学校教育の現場に活かし、心理教育的援助サービスの充実を図ろうとする教育・学校心理学を学ぶ。特に臨床心理学やコミュニティ心理学等の知見を通して、スクールカウンセラーの役割や基本的な考え方を理解し、児童・生徒やその関係者、コミュニティへの支援について学ぶことを目的とする。	
		司法・犯罪心理学		非行や犯罪の動向には、社会情勢の変化や社会の課題が反映されることが多い。また、非行や犯罪の発生とそこからの立ち直りについては、発達やパーソナリティ、家族関係、学校や仕事、地域社会など様々な要因が影響を及ぼすものであり、司法・犯罪領域の基本的事項や理論等を多角的な視点から知っておくことには意義がある。本授業では、①司法・犯罪領域の制度や理論、②主に心理学的見地からのアセスメントと支援の方法、③この領域における専門機関やそこで活躍する専門職の実践について、事例等を適宜紹介しながら、幅広く教授する。また、司法領域に持ち込まれる家庭問題を解決するために、心理学的な視点がどのように活かされているかについても家事事件の概要を通して解説する。	
		産業・組織心理学		ほとんどの人は、大学などを卒業した後には生涯にわたり職業に従事して働く生活を送るだろう。働くということには、キャリア形成や職場でのパフォーマンスの向上、働く人のメンタルヘルスなど様々な問題が関わる。他方、働くということには成長や喜びをもたらす面もある。本授業には「キャリア形成」、「モチベーション」、「ストレスマネジメント」などの職場における問題や組織における人の行動に対する基本的な知識や理解を深める。	
		人体の構造と機能及び疾病		心身機能と身体構造、および様々な疾病や障害に関する知識を習得し、医療領域での心理援助がどのように行われるかを、ビデオやワーク、事例を用いながら実践的に理解していく。全人的医療の観点から、精神科・心療内科における事例だけでなく、より広い医療領域において心理支援が必要な事例に対する心理援助の在り方、チーム医療の中で心理職の仕事について学び、医療領域で幅広く活躍する心理職の役割を考察していく。	
		精神疾患とその治療		精神医学について概説し、精神疾患の診断・治療の総論事項をふまえながら、精神疾患各論について解説する。本授業を通して、精神医学のアウトライン、精神疾患の診断と治療双方ならびに各精神疾患に関する基礎的事項を説明できるようになることが目指される。	
		教育相談		教育相談や生徒指導などにおいて、児童生徒の心理を理解することは非常に重要である。本授業では、カウンセリングをはじめとした臨床心理学の基礎知識をもとに児童生徒への理解を深め、カウンセリングマインドに基づく支援を学ぶことを目的とする。学校では、個人心理や発達だけでなく、関係性や集団・コミュニティ・社会・文化の検討も必要となるため、幅広い視野から児童生徒の心理理解ができるよう、様々な見方・考え方を扱う。ワークによるアクティブラーニングを通して自身の見解を省察する活動も積極的に取り入れる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	現代心理学科目	消費者心理学		消費者行動を心理学的に理解し、自らが「ユーザー側」として適切な消費行動を行うことと、「メーカー側」として消費者の心理を把握し、効果的にアピールする方法を身につけることを目標とする。消費者心理を捉えるマーケティングの方法、消費者心理に訴える商品企画とプレゼンテーションの手法、広告が消費者に与える心理的影響、接客サービスにおける効果的なコミュニケーションの方法、などについて学ぶ。	
		コミュニティ心理学	○	本授業の目標は、人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解することである。まず、危機理論など、コミュニティ心理学的な問題理解のための理論を学ぶ。そして、コンサルテーションやコラボレーションなど、実際に問題を予防するための方法や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援など、さまざまなコミュニティの問題への支援方法について学んでいく。	
		スポーツ心理学		現代社会では、競技としてのスポーツをはじめとして、教育としてのスポーツ、心身の健康増進のためのスポーツ、レクリエーションとしてのスポーツ、スポーツ観戦など、すべての人々がスポーツとのかかわりを持っている。本授業の目標は、スポーツのパフォーマンスに心がどのように関わっているのか、スポーツをすることが人の心にどのような影響を与えるか理解することである。スポーツと心の健康の関係、メンタル面の競技への影響、チームワークなどについて学ぶ。	
		言葉と心理		ある一つの文を発話するには、必ず心理が作用する。本授業では、「社会言語学」「ディスコース分析」「語用論」「相互作用の分析」「言語心理学」などを手がかりに、「言葉と心理」について考察する。特に、話し手（発話者）と聞き手（受信者）の間にある一定の儀礼的なディスコースや、発話者の使用する語彙（あなた、君、お前）・表現（謙譲語、尊敬語、俗語）、声の調子、抑揚や表情など、心的作用に多大な影響を及ぼす「言語運用」に焦点を絞り、「言葉と心理」のメカニズムについて考察する。また、私たちが意思疎通を行う上で、言葉は大切な手段であるが、言葉で思いを表現する際、自分の意図が上手く相手に伝わらない場合がある。なぜなら、同じ内容の発言であっても、言葉の受け止め方は聞き手の心理に左右されるからである。そこで感謝と謝罪の言葉に焦点をあて、様々な実例から「言葉と心理」についても考察する。	
		マンガと心理学		マンガ大国と呼ばれる日本において、多くの日本人がマンガに慣れ親しんでいる。一方で、マンガに関する学術的な研究については、あまり知られていないように思われる。そこで、本授業ではマンガと心理学について概説する。具体的には、まずマンガの歴史やメディアとしての特徴にも触れた上で、マンガに関する学術的な研究を概観する。そして、心理学におけるマンガに関する研究について概観と展望を行う。心理学に基礎、臨床、認知、教育、社会、発達などさまざまな領域が存在するように、マンガにも四コマ、ストーリー、歴史、学習、少年、少女、体験など多様なジャンルが存在する。また、マンガ作家、マンガ作品、マンガ読者それぞれに対して心理学的なアプローチが可能である。本授業では受講生によるグループ調査・発表も行う予定である。	
		アートと心理療法		アートによる心理療法は、言葉では表現しきれないものを扱うことができる点で、言葉を介したやりとりを主とする一般的な心理療法にはない独自の可能性を持っている。社会文化的背景や発達段階の多様性に対応しながら人の心理的健康の保持増進に役立つとするととき、アートの持つ意義は大きい。本授業では、アートと心理療法について、その理論的背景と実践的方法を学ぶことを目的とする。主体的な体験と協働的な作業によって理解を深めるアクティブラーニングも積極的に取り入れる予定である。	
	専門ゼミ科目	心理学ゼミⅠ	○	私たちは、誕生直後からめまぐるしい変化に満ちた環境に適応し、社会文化的な存在として他者とコミュニケーションをとりながら、高度な身体的・認知的スキルを発達させていく。心理学ゼミⅠでは、こうした適応や発達を、臨床心理学・発達心理学・家族心理学・コミュニティ心理学といった心理学的見地から学ぶ。卒業論文のテーマ設定にも役立てられるように、幅広い視野から心理学の現代的な意義とその方法について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	専門ゼミ科目	心理学ゼミⅡ	○	心理学ゼミⅠで取り上げた様々な心理学的トピックのなかから、学生各自で興味や関心があるものを選択し、関連する論文の講読、レポートの作成、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。こうした実践的な作業を通して、自ら問題を調査・探求し、その内容を的確に表現する能力を身に付けることを目標とする。	
		心理学ゼミⅢ	○	心理学の主要理論や代表的な研究、そしてその分析方法を確実に理解したうえで、心理学の多岐にわたるテーマから、学生自身の日常生活と結び付けられ、課題意識をもって取り組むことができる研究対象・事例・トピックを探し出し、そのアイディアについてディスカッションをしながら、研究可能な心理学的アプローチを計画立案することを目指す。	
		心理学ゼミⅣ	○	心理学ゼミⅢで理解した理論・方法論的枠組みと、学生各自が関心を抱いている研究テーマとの接点を改めて精査した上で、研究テーマに沿った実験・調査・分析を進めるとともに、その内容についてプレゼンテーションを行う。学生が主体性を持って取り組むようにし、大学生活における学術的活動の成果をしっかりとした形にすることを目標とする。	
		卒業論文		大学及び心理学科で学んだことのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な心理学的方法を用いて深く分析していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる。	
	公認心理師関連科目	公認心理師の職責		国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師について、その基本的態度を身につけられるよう、役割、意義、倫理、法的義務及び主要領域の業務について学ぶ。本授業はすべて公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員によって行われる。公認心理師取得のために大学院進学を検討している学生は必ず履修すること。なお、本授業ではアクティブラーニングによって学びを深めるため、グループ・ディスカッションを積極的に活用する。主体的かつ協働的な参加が必須な授業である点に留意すること。	共同
		関係行政論		心理援助を行う際には、関連する「法」や「制度」があることを理解し、その枠組みの中で適切に行う必要がある。本授業では、心理援助に関連する様々な法や制度についての知識や理念を学修する。さらに、心理援助の各領域（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業）ごとに、具体的な事例をもちいて少人数のグループ・ディスカッションを行い、実際のケースや対応についての理解を深める。	共同
		心理演習		役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通じて、次の事項についての基本的知識及び技能を習得する。（ア）心理に関する支援を必要とする者等に関する知識及び技能の習得（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等）、（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、（エ）多職種連携及び地域連携、（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。これらの学びを通し、援助の基礎となる基本的なコミュニケーション技術を身につけ、心理・社会・生物的な多様な視点からクライアントを捉えられるようになることを目指す。	共同
		心理実習		公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解にもとづき、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の５つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受けて、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を目指す。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館概論		現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本授業は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論		本授業は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館展示論		本授業は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した授業をする。	
		博物館資料保存論		本授業は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理・・・）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論		本授業は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	
		博物館教育論		本授業は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら授業をする。	
		博物館情報・メディア論		本授業は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	
		博物館実習A（見学実習）		博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
博物館 学芸員 養成課程 科目	省令 必修科目	博物館実習B（実務実習）		博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	
		博物館実習C（館園実習）		博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	